

日本気象学会 2004年度秋季大会

大会プログラムに関する最新情報につきましては、日本気象学会ホームページ(<http://www.soc.nii.ac.jp/msj/>)をご参照下さい。

会期 : 2004年10月6日(水)～8日(金)
 会場 : アクロス福岡(福岡市中央区天神 1-1-1)

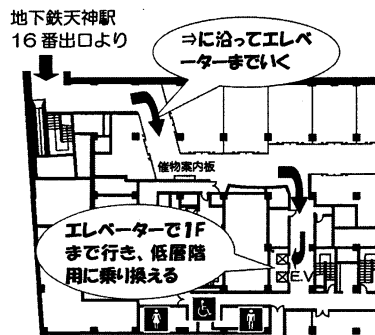
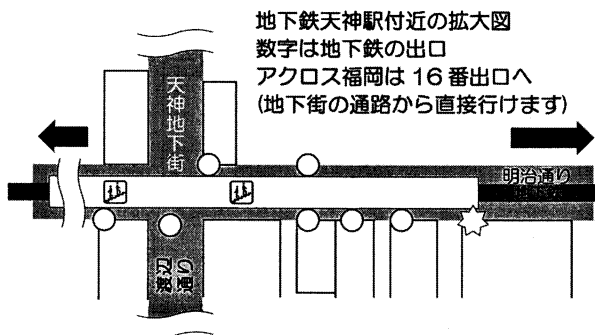
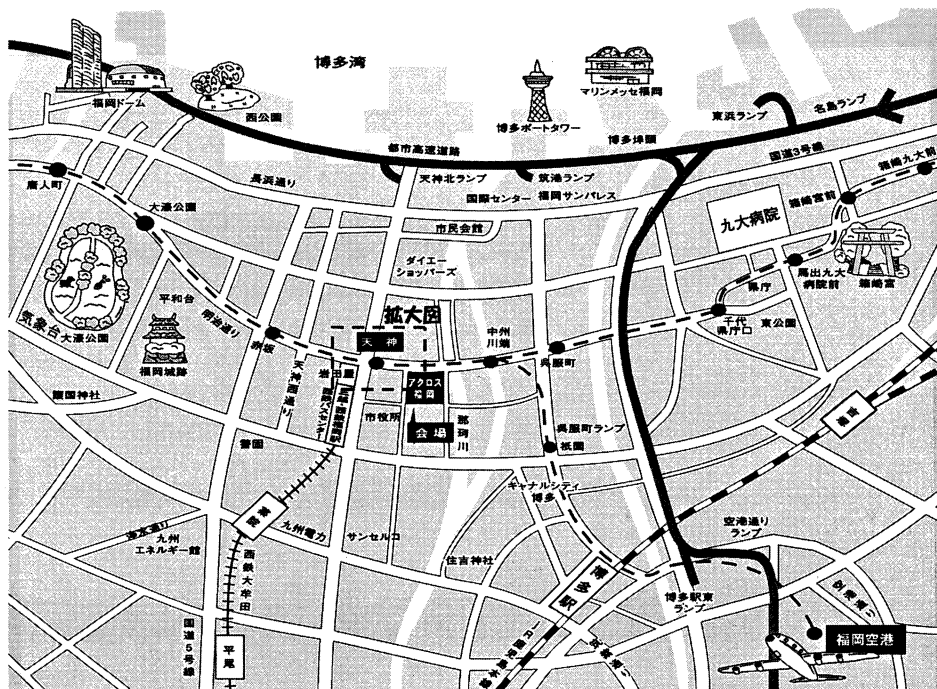
大会実行委員会担当機関 : 福岡管区気象台, 九州大学, (財)日本気象協会九州支社

大会委員長 : 小宮 学(福岡管区気象台)

当日の会場への連絡先 : 大会実行委員会事務局(アクロス福岡 会議室 606)
 TEL・FAX : 092-737-1085

※大会参加者への伝言(FAXも含む)は、受付横の掲示板に貼り付けます。
 取り次ぎはいたしませんのでご承知おきます。

会場案内図



アクロス福岡 B2F 入口付近の拡大図

大会行事予定

A会場 : 国際会議場 (4階)
 B会場 : 大会議室 (7階)
 C会場 : 円形ホール (1階)
 D会場 : 会議室 607 (6階)
 ポスター会場 : 交流ギャラリー (2階)

シンポジウム・各賞授与式会場 : 国際会議場 (4階)

受付 : 国際会議場クロック (4階)
 大会事務局 : 会議室 606 (6階)
 懇親会 : フェスタガーデン (地下2階)

() は講演教, - は座長

		A会場	B会場	C会場	D会場	
10月6日 (水)	09:30 ~ 12:30	降水システム I (21, A101 ~ A121) - 楠 研一 -	気候システム I (21, B101 ~ B121) - 菅野洋光, 阿部彩子 -	物質循環 I (20, C101 ~ C120) - 林 政彦, 須藤健悟 -	大気力学 (19, D101 ~ D119) - 村上茂教 -	
	13:30 ~ 17:00	降水システム II (26, A151 ~ A176) - 小西啓之 -	気候システム II (23, B151 ~ B173) - 磯部英彦, 野田 彰 -	物質循環 II (18, C151 ~ C168) - 須藤健悟, 田口彰一 - 大気境界層 I (5, C169 ~ C173) - 玉川一郎 -	中層大気 (11, D151 ~ D161) - 向川 均 - 中高緯度大気 (9, D162 ~ D170) - 稲津 将 -	
	17:00 ~ 18:00	ポスター・セッション				
10月7日 (木)	09:15 ~ 12:00	スペシャルセッション 「気象情報と防災 - 2003 年夏の水俣市土流災害 は減災し得たか」 (10, A201 ~ A210) - 金崎 厚 -	気候システム III (17, B201 ~ B217) - 黒田友二, 植田宏昭 -	大気境界層 II (9, C201 ~ C209) - 栗原和夫 - 環境気象 (7, C210 ~ C216) - 近藤裕昭 -	放射 (3, B201 ~ B203) - 石元裕史 - 観測手法 I (16, D204 ~ D219) - 石元裕史 -	
	13:00 ~ 13:30	山本正野論文賞・堀内賞・奨励賞授与				
	13:40 ~ 14:00	第33期理事長学術講演「新しい観測のもたらすもの」				
	14:00 ~ 15:20	山本正野論文賞・堀内賞記念講演				
	15:30 ~ 17:40	シンポジウム「極東域の温帯低気圧」 司会: 永田 雅 基調講演: 伊賀啓太, 北島尚子, 村上正隆				
	18:00 ~ 20:00	懇親会				
10月8日 (金)	09:15 ~ 11:30	スペシャルセッション 「GAMEでアジアモン スーンはどこまでわかつ たか?」 I (8, A301 ~ A308) - 杉田倫明, 檜山哲也, 上田 博, 遠藤伸彦 -	スペシャルセッション 「アジアングラスト」 I (12, B301 ~ B312) - 三上正男, 矢吹貞代, 黒崎泰典 -	熱帯大気 I (15, C301 ~ C315) - 吉村 純, 久保田尚之 -	気候システム IV (5, D301 ~ D305) - 筒井純一 - 相互作用 (10, D306 ~ D315) - 時長宏樹 -	
	11:30 ~ 12:30	ポスター・セッション				
	13:30 ~ 17:00	スペシャルセッション 「GAMEでアジアモン スーンはどこまでわかつ たか?」 II (15, A351 ~ A366) - 大畑哲夫, 里村雄彦, 松本 淳, 安成哲三 -	スペシャルセッション 「アジアングラスト」 II (19, B351 ~ B369) - 杉本伸夫, 千葉 長, 竹村俊彦 -	気象教育 (2, C351 ~ C352) - 寺尾 徹 - 熱帯大気 II (5, C353 ~ C357) - 寺尾 徹 - 台風 (14, C358 ~ C371) - 山崎信雄, 那須野智江 -	観測手法 II (11, D351 ~ D361) - 堀 雅裕 - 気象予報 (14, D362 ~ D375) - 室井ちあし -	

発表件数: 510件 (口頭発表 366, ポスター 144)

口頭発表の講演・質疑時間: 6分と2分

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし著作者自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは、〒305-0052 茨城県つくば市長峰 1-1 気象研究所予報研究部内 講演企画委員会 (e-mail: org-msj@mri-jma.go.jp) まで。

大会参加費：郵便振替による前納の場合 一般会員 2,000 円、学生会員 1,000 円；
 当日受付の場合は 一般会員 3,000 円、学生会員 2,000 円、非会員 3,000 円。
 懇親会費：郵便振替による前納の場合 一般会員 4,500 円、学生会員 3,500 円；
 当日払いの場合は 一般会員 5,500 円、学生会員 4,500 円、非会員 5,500 円。

大会当日は混雑しますので、極力前納されるようお願いいたします。
 なお郵便振替用紙は「天気」6月号の末尾に挿入されたものを使い、9月24日までに振り込んで下さい。

講演の方法

口頭発表

口頭発表の一人当たりの発表時間は、全時間を申込件数で等分したものを目安として講演企画委員会が決定することになっています。今回については、**講演時間を6分・質疑時間を2分**といたしますのでよろしくお願ひします。スペシャルセッションについては世話人からの指示に従ってください。

ポスター発表

ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、幅 1.2m×高さ 2.4m となっています。ポスターの掲示の際、押しピン・テープ類が使用可能です。これらは**発表者自身で準備してください**。
 ・ポスターの掲示可能時間は以下の通りです。特に**撤去時間については厳守願ひ**します。
 一第1日の発表者は10月6日9:00～10月7日12:30
 一第3日の発表者は10月7日12:30～10月8日14:00

機器の使用について

●口頭発表

- ・OHPとPCプロジェクターが使用できます。
- ・**PCプロジェクターを使用する際は予め以下の点をご了承ください。**
 - －PCプロジェクターの使用を希望する場合は、必ず当該セッション開始前の休憩時間に、当該会場でご発表の旨を申し出て下さい。
 - －パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクターおよび接続ケーブルのみを準備します。
 - －セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、開始前に会場係に申し出て下さい。
 - －突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で、発表順を繰り下げたりOHPによる発表に切り替えさせて頂くことがあります。このため、最低限の発表が出来るだけのOHPシートも用意しておいて下さい。

●ポスター発表

- ・ポスター会場での機器の使用は講演申し込み時に申し出ていたもの以外は原則として認められません。

シンポジウム「極東域の温帯低気圧」

日時：大会第2日(10月7日) 15:30～17:40
 会場：アクロス福岡 国際会議場
 司会：永田 雅(気象庁福岡管区气象台)

※シンポジウムの聴講は無料です

趣旨

中緯度偏西風帯の高低気圧・ジェット・前線は、日々の天気変化に最も深く関係しているほか、メソスケール擾乱に影響を及ぼしてシビアな現象の発生にも直接・間接に関与しており、学術的にも実用的にも極めて重要な気象の擾乱である。欧米では現在でも盛んに研究が行われているのに対し、わが国での研究活動は個々の擾乱についてはあまり活発とは言えない。また、教育・普及の面では、理科離れや地学・気象教育の機会が減る状況の中で、これらについて必ずしも適切な説明が行われているとは言えないし、一般向けの気象の解説も最新の研究成果からはほど遠く、進歩が見られない。

一方、気象予報士の資格取得者が数千人に達していること、即時的データや数値モデル、あるいは、数値予報の製品が比較的簡単に利用できるようになってきたこと、IT技術の進展など、環境は大きく変化しつつある。これにより、研究、応用、教育・普及の各分野が、官民の気象実務者を仲立ちとする情報交換を通じて、それぞれの活動レベルを高めることが可能になりつつあると考えられる。そこで、最新の研究成果を踏まえて、中緯度偏西風帯の高低気圧・ジェット・前線と極東域の温帯低気圧に関する基本的な知見を提供すると共に、各分野の連携を進める一つのきっかけとするため、このシンポジウムを企画した。

研究課題の整理のほか、官民の気象実務者に、総観気象の実況監視・解析に役立つ低気圧とジェット・前線系の構造や雲と降水の分布とそれらの時間発展についての基礎知識を提供したい。

基調講演

- (1) 「ジェットと高低気圧・前線の力学」
- (2) 「温帯低気圧と前線の構造・時間発展」
- (3) 「温帯低気圧の雲と降水」

コメント

- ・「極東域の低気圧活動の特徴」
- ・「寒候期海洋上の温帯低気圧の特徴」
- ・「梅雨前線上のメソ α 低気圧の特徴」

伊賀啓太 (九州大学応用力学研究所)
 北島尚子 (気象庁気象研究所)
 村上正隆 (気象庁気象研究所)

中村 尚 (東京大学大学院理学研究科)
 高野 功 (気象庁予報部予報課)
 田上浩孝 (東京大学海洋研究所)

第33期理事長学術講演

日時：大会第2日(10月7日) 13:40～14:00

会場：アクロス福岡 国際会議場

講師：第33期理事長 廣田 勇

題目：「新しい観測のもたらすもの」

要旨

気象学の歴史を振り返ってみると、夫々の時代を形作ってきた研究分野・テーマ・概念の発端となったのは常に新しい観測がもたらした大気現象・過程の発見や事実の解明であったことは間違いがない。ノルウェー学派の前線波動論が傾圧不安定理論の動機となったこと、突然昇温やQBOの発見が波動平均流相互作用論の開拓に繋がったことなどがその好例である。南極オゾンホールと大気化学発展の関係もまた然り。

この講演では、最近の気象学研究にインパクトを与えてきた新しい観測の実例として、航空機・衛星・レーダーなどのもたらした成果を取り上げ、それらを通して気象学における観測の持つ意義や重要性をあらためて強調したい。

スペシャルセッション

「気象情報と防災－2003年夏の水俣市土石流災害は減災し得たか」

日時：大会第2日(10月7日) 09:15～12:00

会場：アクロス福岡 国際会議場(大会A会場)

世話人：金崎 厚 (鹿児島地方気象台)、弘中秀治 (山口県宇部市役所)、
金子法史 (福岡管区気象台)、岩田 修、白石晶二 (日本気象予報士会)

趣旨

昨年7月の水俣市土石流災害については、防災上、特に気象情報の発表・伝達という観点から多くの反省点があったことが指摘されている。このセッションは、当該土砂災害をひとつの事例として捉え、防災気象情報の質的向上とその提供・利用のあり方についての議論を行う場としたい。公助・共助・自助による減災(抑災、避災)努力の各観点で、気象情報作成・提供者、防災担当者、報道関係者、一般市民など様々な立場の方からの意見を伺い、議論することによって、社会の切実な気象情報ニーズに対し、気象研究者、気象業務従事者はどう関わっていけばよいのか、その資を得ることが狙いである。従って、発災時の気象の事例解析等は勿論のこと、標題の事例にかかわりなくより一般的な立場から、例えば「防災情報としての気象情報の果たす役割」などについての発表も歓迎するので、多数の応募発表をお願いする。なお、気象学会員による講演ではまかないにくい観点を補うため、市町村防災担当者や報道関係者等による招待講演も計画したい。

スペシャルセッション「GAMEでアジアモンスーンはどこまでわかったか?」

日時：大会第3日(10月8日) 09:15～11:30, 13:30～17:00

会場：アクロス福岡 国際会議場(大会A会場)

世話人：GAME実行計画委員会(代表：安成哲三・名古屋大学地球水循環研究センター)

趣旨

GAME(アジアモンスーンエネルギー・水循環研究観測計画)は、第1期(1996-2001年度)には、1998年の集中観測期間(IOP)をはじめとして、主に観測研究が行われ、現在は、第2期(2002-2004年度)にはいって、これまでに得られた観測データの解析とモデリングを中心に研究が進められている。第2期の最終年度にあたり、これまで、GAMEで得られた研究成果によってアジアモンスーンに関する知見はどこまで深まったのかを総括し、今後、アジアモンスーンとその変動に関する研究として、何をどう進めていくべきか、について学会の場で議論することは、重要なことであり、また時機にもかかっていると考える。大気・海洋・陸面相互作用としてのモンスーンと、その時間変化(日変化、季節内変動、季節変化および経年変動、あるいは、人間活動による変化など)、あるいは地域的な問題など、さまざまな角度から、GAMEで得られた知見を整理し、今後の研究課題について議論する中で、ポストGAME研究の枠組みについても検討することを目的として、この特別セッションを提案したい。

スペシャルセッション「アジアングラスト」

日時 : 大会第3日(10月8日) 09:15 ~ 11:30, 13:30 ~ 17:00

会場 : アクロス福岡 大会議室(大会B会場)

世話人 : 三上正男 (気象研究所)

趣旨

大陸の乾燥域から風により舞い上がり、大気中に浮遊するダスト(鉱物質エアロゾル)の研究は、気候系の中での役割解明、大気環境への影響という新しい視点を獲得しつつ、近年活況を示している。特に、東アジアのダストに関しては、アジア各国の国際協力の下に様々な共同研究が進められ、大きな成果を挙げている。本セッションでは、アジアングラスト研究の到達点を概観すると共に、今後の研究展開を照射するための議論が行えればと考えている。数多くの研究者の参加をお願いいたします。

研究会のお知らせ

大会期間中とその前後に以下の研究会が予定されています。興味のある方はご自由にご参加下さい。

第24回メソ気象研究会

日時 : 2004年10月5日(火)(大会前日) 14:00 ~ 17:30 (予定)

場所 : 九州大学国際研究交流プラザ大会議室 (〒814-0002 福岡市早良区西新2-16)

<http://www.kyushu-u.ac.jp/somu-bu/kenkyukyoryoku-ka/nishijin/mainpage.htm>

テーマ : 「集中豪雨のメカニズム・予測可能性に迫る」

コンビナー : 加藤輝之 (気象研究所)

内容 : 今年は静岡県で発生した豪雨(6/30)から始まり、新潟・福島豪雨(7/13)、福井豪雨(7/18)、四国での豪雨(8/1, 8/19)と豪雨災害が立て続けに発生し、世間での関心も非常に強い。集中豪雨は台風の直接的なものを除き、ほとんどが線状の降水帯によりもたらされる。ある場所では時間100mmに近い降水量が観測されても、そこから20~30km離れた場所では降水が観測されない場合がある。そのような場合、集中豪雨があったからと言っても100km格子で平均してより大きなスケールで見ると、時間降水量は10mm程度にしかない。このように文字通り、集中豪雨はある場所に降水が集中した結果である。それでは、そのような線状の降水帯がどのような環境下で発生し、どのような構造をしているのか改めて議論したい。また、集中豪雨を引き起こす正体は積乱雲そのものである。そのことから集中豪雨を数値モデルで再現するためにはその積乱雲を取り扱うことができるモデルと分解能が必要である。そのようなモデルとして昨今、雲解像非静力学モデルが用いられてきている。そこで、現在そのモデルを用いて、どの程度集中豪雨が予測可能であるのかについても探ってみたい。また、集中豪雨を予測するための問題点も合わせて議論する予定である。

プログラム :

趣旨説明 加藤輝之 (気象研)

講演 (各講演は質疑・討論を含め30分)

「1999年10月27日佐原豪雨(仮題)」

金井秀元 (東大海洋研)

「2003年7月19日九州北部豪雨の降水システムについての考察」

松本積 (福岡管区気象台)

「雲解像モデルを用いた水俣豪雨のシミュレーション」

坪木和久 (名大地球水循環)

「2004年新潟・福島豪雨、2004年福井豪雨の発生要因と

高解像度非静力学モデルでの予想結果と問題点」

加藤輝之 (気象研)

「気象庁非静力学モデル-3次元同化システム(JNoVA0)で再現した練馬豪雨)」

瀬古弘 (気象研)

総合討論

世話人 : 坪木和久(名古屋大学地球水循環研究センター)、加藤輝之(気象研究所)、小倉義光(東京大学海洋研究所)

連絡先 : 加藤輝之(気象研究所)

TEL: 029-853-8636, FAX: 029-853-8649, Email: tkato@mri-jma.go.jp

オゾン研究連絡会

日時：2004年10月6日(水) セッション終了後から2時間程度

場所：アクロス福岡 607会議室(大会D会場)

内容：6月にギリシャでおこなわれた国際オゾンシンポジウムおよび8月にカナダでおこなわれたSPARCの参加報告を以下の方々におこなっていただきます。

オゾンシンポジウム：齊藤尚子(国立環境研究所)、野口克行(JAXA/EORC)

SPARC：江口菜穂(京大生圏研究所)、宮崎和幸(東北大理)

報告者それぞれの立場から、話題になっていたテーマや興味深かった内容を取り上げてもらいます。オゾンシンポジウムでは ozone recovery と衛星観測について、SPARC では熱帯対流圏界面遷移層(TTL)と CTM 等のモデリングに重点を置いて話していただく予定です。関心のある方は是非ご参加下さい。

世話人：笠井康子(情報通信研究機構)、川上修司、河本 望(宇宙航空研究開発機構)、永島達也(国立環境研究所)、
庭野将徳(京都大学大学院理学研究科)、村田 功(東北大学大学院環境科学研究科)

連絡先：村田功(東北大学大学院環境科学研究科)

TEL:022-217-5776, FAX:022-217-5775, E-mail:murata@pat.geophys.tohoku.ac.jp

地球観測衛星研究連絡会

日時：2004年10月6日(水) 18:00～20:00

場所：アクロス福岡 大会議室(大会B会場)

内容：

人工衛星からのリモートセンシングによる地球観測は、ひまわりの雲画像で象徴されるように天気予報の精度向上をはじめとする気象業務や気象学の発展のために大いに役立ってきました。さらに、最近の地球温暖化など地球規模の気候の問題、地球環境問題の解明にも大いに役立つことが期待されています。ところが、現在のわが国の衛星観測をめぐる状況は、衛星データの利用者は増加する一方、ハードウェアやアルゴリズムの開発の面では必ずしも十分な体制が取られているとは言えません。そこで、気象学会員として、気象学研究者あるいは気象学応用技術者の立場として、衛星観測に基づく研究計画を検討したり、地球観測のあり方、将来計画等について議論する場を設けることが重要と考え、標記研究連絡会が昨年度設立されました。今回の会合では、衛星観測による気候変動・物理過程および大気化学の研究の現状、並びに我が国の地球観測衛星の開発・運用に関する話題を提供していただき、参加者とともに議論したいと考えています。関心をお持ちの方は是非お集り下さい。

話題提供者：

- (1) 大気科学研究における衛星データ利用について

中島映至(東京大学)

林田佐智子(奈良女子大学)

- (2) 我が国の地球観測衛星の開発、運用について

木村俊義(宇宙航空研究開発機構)

世話人：中島 孝(宇宙航空研究開発機構)、日暮明子(国立環境研究所)、高橋暢宏(情報通信研究機構)、
塩谷雅人(京都大学)、早坂忠裕(総合地球環境学研究所)

連絡先：早坂忠裕(総合地球環境学研究所)

TEL: 075-229-6161, FAX: 075-229-6150, E-mail: hayasaka@chikyuu.ac.jp

極域・寒冷域研究連絡会

日時：2004年10月8日(金) 17:15～2時間程度

場所：アクロス福岡 円形ホール(大会C会場)

話題：

1. 寒冷域の大気循環

「2002年南半球大規模突然昇温について」廣岡俊彦(九州大学大学院理学研究院)

2. 両半球の海水域変動とモデリング

「北半球海水域変動と大気循環場の関連についての最近の知見」本田明治(地球環境フロンティア研究センター)

「南極海水域の変動について衛星リモートセンシングデータから分かること」木村 詞明(北海道大学低温科学研究所)

「南極海水分布に海水力学過程が及ぼす影響について」小倉 知夫(国立環境研究所)

今回の極域・寒冷域研究連絡会は、「寒冷域の大気循環」及び「両半球の海水域変動とモデリング」と題しての講演特集です。最近、客観解析データや衛星データの充実に加え、海水モデルの開発などで、極域研究の方向も非常に多岐にわたるようになってきました。極域研究の発展には、現地での直接的観測が非常に重要であるとは言うまでもないことですが、デ

ータ解析やモデル研究などの間接的手法による研究も重要な貢献をしています。そこで、今回は、数値モデルやデータ解析等による「デスクワーク」を中心に研究を進められている4名の方々に講演をお願いしました。前半では、最近話題になった、2002年に南半球で見られた大規模突然昇温に関する研究を紹介して頂きます。後半では、観測データ及び再解析データを用いた両極の海水変動に関する研究、及び海氷モデルを用いた研究についての話題を提供して頂きます。

代表：山崎孝治(北海道大学大学院地球環境科学研究科)

世話人：平沢尚彦(国立極地研究所)，中村 尚(東京大学理学部)，浮田甚郎(コロンビア大学)，
高田久美子(地球環境フロンティア研究センター)，阿部彩子(東京大学気候システム研究センター)，
佐藤 薫(国立極地研究所)，本田明治(地球環境フロンティア研究センター)，
齋藤冬樹(東京大学気候システム研究センター)，高谷康太郎(地球環境フロンティア研究センター)

連絡先：高谷康太郎(地球環境フロンティア研究センター)

TEL:045-778-5526, FAX:045-778-5707, E-mail:takaya@jamstec.go.jp

第1回 THORPEX 研究会

THORPEX とは、現業機関と研究機関とが協力して中期予報の精度向上を目指す、世界気象機関の国際研究計画です。アジアにおけるこのプロジェクトの推進について検討するとともに、広くこのプロジェクトについて皆様にご知っていただくために、THORPEX 研究会を下記の要領で開催いたします。多数のご参加をお待ちしております。

日時：2004年10月9日(土)(大会翌日)9:00-13:00

場所：九州大学 理学部本館 1133号室(地惑第一講義室)

九大アクセスマップ：<http://www.kyushu-u.ac.jp/map/accessmap.html>

福岡地区キャンパスマップ(要 flash, 理学部本館は30番)：

<http://www.kyushu-u.ac.jp/map/campusmap/hakozaki/hakozaki.html>

テーマ：中期予報の精度向上にはどのような知見が必要か。また、何ができるのか。

講演：質問を含めて各々30分程度

- ・中澤哲夫(気象研)：Asian THORPEX について
- ・余田成男(京大)：THORPEX までの歴史的経緯と基礎概念
- ・経田正幸(数値予報課)：現業アンサンブル予報と THORPEX
- ・入口武史(数値予報課)：北大西洋 TReC 特別観測データの気象庁全球モデル予報へのインパクト
- ・山根省三(地球フロンティア)：地球シミュレータでのアンサンブル実験

総合討論：30分から1時間

司会：大淵 済(地球シミュレータセンター)

事務局：〒236-0001 横浜市金沢区昭和町3173-25(独)海洋研究開発機構 榎本 剛(eno@jamstec.go.jp)

世話人：中澤哲夫，露木 義，余田成男，中村 尚，大淵 済，榎本 剛(事務局)

第26回 IGBP/GAIM 研究会

日時：2004年10月9日(土)(大会翌日)9:30-12:00

場所：九州大学国際研究交流プラザ中会議室(〒814-0002 福岡市早良区西新2-16)

<http://www.kyushu-u.ac.jp/somu-bu/kenkyukyoryoku-ka/nishijin/mainpage.htm>

内容：招待講演および一般講演

世話人：末田達彦(愛媛大)，馬淵和雄(気象研究所)

*研究会のプログラムなど詳細については、気象学会会場に掲示予定。

春季大会の予告

2005年度春季大会は、2005年5月15日(日)～18日(水)に東京大学本郷キャンパスで開催される予定です。大会告示は「天気」12月号に掲載されます。春季大会の発表申し込み締め切りは2005年2月頃となる予定です。

大会第1日〔10月6日〕 A会場

(~~~~は講演者を表す)

午前(09:30 ~ 12:30)

降水システム I

座長：楠 研一(気象研)

- A101 川口和哉・川野哲也(九大院理)他 梅雨期九州近海上におけるメソ対流系の形態に関する研究
- A102 山田広幸・歌麿(地球環境観測研究センター)他 1名 1996年から2003年の梅雨期におけるクラウドクラスターの出現特性と環境場
- A103 坪木和久(名大地球水循環)・柳原篤志(中電シーテイエーアイ) 梅雨前線帯メソ低気圧に伴う局地豪雨の形成過程ー平成16年7月新潟・福島豪雨についてー
- A104 加藤内蔵進・池田祥一郎(岡山大教育) 大陸の梅雨前線の北方域における大気状態の季節経過と水循環(1998年の中国淮河河流域における事例解析)
- A105 歌麿・山田広幸(地球環境観測研究センター)他 2名 長江下流域で観測された梅雨前線のメソスケール構造
- A106 Zhang Cheng Zhong・上田博(名大地球水循環)他 2名 Characteristics of Convective Echoes around the Meiyu Front over Huaihe Basin - Analyses with Hefei Dopplar Radar for 2001-2003 -
- A107 上田博(名大地球水循環)・茂木耕作(京大防災研)他 5名 東シナ海上の水蒸気前線の航空機観測
- A108 永戸久喜・青梨和正(気象研)他 2004年沖縄梅雨集中観測期間中に発生したメソ降水系の雲解像数値シミュレーション
- A109 加藤輝之(気象研) 気象レーダーを用いた九州でみられる地形性降雨の統計的研究
- A110 用具敏郎(鹿児島地方気象台) 2003年7月20日、鹿児島県伊佐郡菱刈町で発生した豪雨の特徴
- A111 下瀬健一・川野哲也(九大院理)他 1名 2004年6月27日佐賀市で被害をもたらした竜巻の解析
- A112 鈴木修(気象研) 2002年7月10日埼玉竜巻日の関東地方の気象条件について
- A113 川瀬宏明・木村富士男(筑波大生命環境) 紀伊水道から伸びる筋状雲の発生メカニズム
- A114 渡辺明(福島大教育) 冬季モンスーンにおける東北地方の降雪雲モードについて
- A115 楠研一・村上正隆(気象研)他 7名 山脈風下の乱流とそれによる山岳性降雪雲の内部構造の変化
- A116 荻村孝嗣・花田隆(防衛庁)他 3名 小松飛行場周辺における航空機被雷の事例解析(SAFIRによる観測結果)
- A117 高橋幸弘・足立透(東北大)他 3名 EQUARS 衛星に搭載される大気光・雷カメラ ALIS によるスプライト観測
- A118 園井康夫(近畿大高専) 三重県南部の落雷の性状について(ケーススタディ)
- A119 K. Krishna Reddy・城岡竜一(地球環境観測研究センター)他 7名 Marine boundary layer evolution and characteristics of the precipitating clouds associated with monsoon over Palau in the Western tropical Pacific Ocean
- A120 小林文明・菅原広史(防大地球科学)他 2名 ガストプロシンドの微細構造
- A121 清水崇博(日大院地球情報)・山川修治(日大文理) 富士山における笠雲の発生と700hPa付近に存在する安定層との関係

午後(13:30 ~ 17:00)

降水システム II

座長：小西啓之(大阪教育大)

- A151 荒本文明・古市幹人(地球シミュレータ)他 1名 マルチスケール大気海洋シミュレーションにおける可視化の表現と手法

- A152 彭新東・小峯賢治(地球シミュレータ)他 1名 Yin-Yang 格子非静力モデルの全球平均場と降水検証
- A153 志村和紀(鋼管計測)・高橋勉(桜美林大) 3次元雲モデルによる降水特性と微物理過程
- A154 高橋勉(桜美林大) アジアモンスーン雨の降水機構・豪雨機構
- A155 鈴木健太郎・中島映至(東大気候システム)他 2名 ビン法粒子モデルによる雲-エアロゾル相互作用の数値実験(続)
- A156 久芳奈遠美(地球環境フロンティア)・竹村俊彦(九大)他 2名 非静力学モデルへのビン法雲微物理モデルの搭載ービン法の初期雲粒粒径分布を求めるパラメタリゼーションー
- A157 芝定孝・平田雄志(大阪大院基礎工)他 1名 異粒系CCNが混在する気塊内で競合的成長した雲粒の平衡半径
- A158 村上正隆(気象研)・Bill Hall(NCAR) 対流混合層内に形成される筋状降雪雲の数値実験
- A159 井口享道・中島映至(東大気候システム)他 2名 APEX-E-3 雲観測データによる雲解像モデル結果の検証
- A160 那須野智江(地球環境フロンティア) 熱帯の雲の日変化の数値実験
- A161 山嵜正紀(地球環境フロンティア) 熱帯のスコールラインにおける雲の微物理過程の役割:バルク法の改善に向けて
- A162 菊地信弘・熊谷博(NICT) 雲レーダによる雲物理量鉛直プロファイルと放射強制力
- A163 大野裕一・堀江宏昭(NICT)他 2名 雲レーダで観測された小金井上空の雲の高度ごとの出現頻度
- A164 和田英子・山本真之(京大生存研)他 4名 MU レーダーとライダーによる巻雲の同時観測
- A165 蝶野洋平・播磨屋敏生(北大院理)他 5名 2波長レーダーを用いた降水量鉛直プロファイルのリトリバル(I)-レーダーパラメータの規格化ー
- A166 酒井哲(名大院環境)・折笠成宏(気象研)他 7名 ラマンライダーと雲粒子ゾンデによる上層雲の比較観測
- A167 小西啓之・三尾尚己(大阪教育大)他 2名 雨滴の粒径別同位体組成から見た降水過程の研究
- A168 中井専人・石坂雅昭(防災科研)他 4名 雪雲の種類によるZe-R関係の差異
- A169 佐藤尚毅・城岡竜一(地球環境観測研究センター)他 5名 シーロメーターによって観測された暖水域における積雲対流の雲低高度の頻度分布の季節変化
- A170 Randolph Ware・SIGMET JAPAN マイクロ波放射計による霧の予報
- A171 重尚一(大阪府立大工)・高森縁(東大気候システム)他 2名 TRMM PR データからの潜熱加熱プロファイルのスペクトル推定:対流性加熱推定の改良
- A172 高橋暢宏(NICT)・阿波加純(北海道東海大) 融解層の衛星搭載マイクロ波放射計輝度温度へ与える影響の評価
- A173 小嶋正也・浅野正二(東北大院理)他 1名 NOAA-AVHRR データ解析による下層雲の雲物理特性
- A174 広瀬正史(JAXA/EORC)・中村健治(名大地球水循環) TRMM PR で観測された降雨強度鉛直勾配の時空間変動
- A175 斎藤篤思・村上正隆(気象研)他 3名 氷晶核測定装置を用いた氷晶核数濃度の測定
- A176 高橋庸哉(北海道教育大)・遠藤辰雄(鳥取環境大) 樹枝状雪結晶の昇華による二次氷晶生成の可能性ー雪結晶の昇華実験から

大会第1日〔10月6日〕 B会場

(~~~~は講演者を表す)

午前(09:30 ~ 12:30)

気候システム I

座長：菅野洋光(東北農業研究センター)

- B101 正村史朗(総合科学研) 2004~06年の干天、風水害の予測の中間報告—天明系、天保系の大凶凶群、享保系の大干ばつ群は勿論、空梅雨、冷夏などは数十年先、数百年先から予測できる—
- B102 岩間周二(倉吉東高)・山中大学(神戸大自然/FORSGC) 夏季西日本猛暑予想へのファジィ理論の応用の試み
- B103 菅野洋光(東北農業研究センター) 西太平洋 SST 東西コントラストと 500hPa 高度の相関関係について
- B104 宮坂隆之・荒井美紀(東大気候システム)他 1 名 2003 年日本における冷夏の解析と数値実験
- B105 川村隆一・若林成治(富山大理)他 2 名 東アジア夏季の異常気象に関連する遠隔伝播パターンの動態
- B106 佐藤尚毅(地球環境観測研究センター)・高橋正明(東大気候システム/地球フロンティア) 亜熱帯収束帯としての「対流ジャンプ」
- B107 田上浩孝・新野宏(東大海洋研) 梅雨前線の明瞭・不明瞭年の大規模場の特徴—その 2—
- B108 廣田清郎・高橋正明(東大気候システム)他 1 名 東アジアの降水傾向とその気圧パターン

座長：阿部彩子(東大気候システム)

- B109 二宮洸三・江守正多(地球環境フロンティア)他 3 名 大気気候モデルによる東アジア降水の季節進行
- B110 安富奈津子・木本昌秀(東大気候システム)他 1 名 CCSR/NIES/FRCGC T106 AGCM によって再現された日本付近の降水分布
- B111 仲江川敏之・松丸圭一(気象研) 観測と AGCM から推定された 200 年確率年最大降水量の比較
- B112 保坂征宏(気象研)・野原大輔(JST/気象研) 気象研究所全球河川モデルの開発
- B113 穂積祐・植田洋匡(京大防災研)他 1 名 サウジアラビア西海岸における乾燥地の緑地化に関する比較実験
- B114 馬淵和雄(気象研)・木田秀次(京大理) 陸面植生モデル BAIM Ver.2(BAIM2)とそれを組み込んだ全球気候モデルによる予備の数値実験
- B115 小畑淳(気象研) 地球温暖化における陸と海の炭素循環の役割
- B116 寛田浩文(地球環境フロンティア)・佐藤正樹(地球フロンティア/埼玉工大)他 3 名 全球雲解像モデル NICAM による水惑星実験(1)
- B117 岡本創・西澤智明(東北大院理)他 3 名 観測船「みらい」搭載の雲レーダとライダーを用いた雲の多層構造の研究
- B118 河本和明(地球研) アマゾン域の雲・放射・降水の季節サイクル
- B119 高村陽子・木田秀次(京大院理) 海洋・大陸配置と放射過程
- B120 阿部彩子・齋藤冬樹(東大気候システム)他 1 名 大気循環モデルと三次元氷床モデルを用いた過去 40 万年氷期間氷期サイクルの再現実験:軌道要素と CO₂ の役割
- B121 酒井孝太郎(地球環境フロンティア) 中間階層の結合気候モデルに現れた十年~数十年規模の変動性

午後(13:30 ~ 17:00)

気候システム II

座長：磯部英彦(福岡管区気象台)

- B151 山崎信雄(気象研) 日本の豪雨の長期変動と周辺の大規模場の変化の関連

- B152 藤部文昭・山崎信雄(気象研)他 2 名 日本における短時間降水量の強度別の長期変化(106 年間の統計)
- B153 山元龍三郎(元京都大学)・伊ヶ崎英雄(日本気象協会)他 1 名 極端な気象現象の長期変動の実態—都市化の影響
- B154 大河内康正・小川裕士(八代高専) 九州地方の都市気候と温暖化
- B155 日下博幸(電中研)・Fei Chen(NCAR)他 2 名 次世代の領域気象モデル WRF への都市モデルの導入とヒートアイランドのシミュレーション
- B156 村治能孝(エナジシェアリング) 都市、内陸及び海岸域の日の気温についての検討(気象庁 web データを用いた解析)
- B157 関隆則(日本気象予報士会) 気温日較差のスペクトル形状による天気変化の数値化

座長：野田 彰(気象研)

- B158 西澤誠也・余田成男(京大理) 大気内部変動による有限長データでの見かけのトレンド
- B159 石井正好(地球環境フロンティア)・木本昌秀(東大気候システム) 20 世紀海洋データ同化—全球海面高度の長期変動—
- B160 蒲生稔・前田高尚(産総研)他 4 名 北半球の中高緯度落葉樹林帯の展葉時期の経年変化(その 2)
- B161 野沢徹・永島達也(環境研)他 20 世紀における平均地上気温変動の要因推定
- B162 横島徳太・江守正多(環境研)他 3 名 火山噴火に対する雲の応答:気候感度への依存性
- B163 長谷川聡(地球環境フロンティア)・江守正多(環境研) CCSR/NIES/FRCGC T106 AGCM を用いた CO₂ 倍増実験における西部北太平洋領域の熱帯低気圧による強い降水
- B164 行本誠史・小寺邦彦(気象研)他 2 名 地球温暖化に伴う北半球冬季の AO 的な海面気圧パターンは成層圏が起源か?
- B165 筒井純一・吉田義勝(電中研)他 7 名 大気海洋結合モデル CCSM3 を用いた温暖化予測実験
- B166 野田彰・鬼頭昭雄(気象研)他 37 名 水平解像度 20km 大気モデルによる地球温暖化タイムスライス実験
- B167 楠島司・吉村裕正(気象研)他 3 名 20km 格子全球大気モデルによる地球温暖化時の梅雨
- B168 石原幸司・齋藤仁美(気象庁気候情報)他 4 名 地域気候モデルを用いた約 100 年後の夏季の降雨特性の変化
- B169 石原幸司(気象庁気候情報)・和田一範(国総研)他 3 名 洪水・渇水リスク評価に向けた MRI-RCM20 の降雨特性再現性
- B170 室井ちあし・吉崎正憲(気象研)他 41 名 水平解像度 5km 非静力学モデルによる領域温暖化予測実験 (1)概要
- B171 若月泰孝(AESTO)・室井ちあし(気象研)他 6 名 水平解像度 5km 非静力学モデルによる領域温暖化予測実験 (2)予測精度と豪雨頻度評価
- B172 安永数明(AESTO)・室井ちあし(気象研)他 11 名 水平解像度 5km 非静力学モデルによる領域気候予測(3)梅雨前線の降水の温暖化による変化
- B173 金田幸恵(AESTO)・室井ちあし(気象研)他 8 名 水平解像度 5km 非静力学モデルによる領域温暖化予測実験(4)現在気候と温暖化気候における梅雨前線帯の降水システムの変質
- B174 橋本明弘(AESTO)・村上正隆(気象研)他 7 名 水平解像度 5km 非静力学モデルによる領域温暖化予測実験(5)現在気候と温暖化気候における雲微物理量の比較

大会第1日〔10月6日〕 C会場

(~~~~は講演者を表す)

午前(09:30 ~ 12:30)

物質循環 I

座長：林 政彦(福岡大理)

- C101 長谷徹志(名大院環境)・五十嵐誠(極地研)他 8名
グリーンランド内陸氷床での大気・降雪サンプリング
- C102 兼保直樹(産総研)・塩原匡貴(極地研)他 1名
太平洋上空におけるアジア大陸起源エアロゾルの光学的特性 - 父島における輸送イベント時のクロージャースタディー
- C103 當房豊・岩坂泰信(名大)他 2名
夏季のチベット高原上空における低濃度オゾン現象と対流圏界面付近の高濃度エアロゾル
- C104 金潤爽・岩坂泰信(名大院環境)他 7名
アジア大陸砂漠地域の自由対流圏で観測されたエアロゾルの数濃度-粒径分布の特徴: 中国敦煌においての気球観測
- C105 足立幸徳(筑波大)・若松伸司(環境研)他 4名
2004年4月19日にMODISで見られたダストストームと低気圧まわりの流れ
- C106 竹見哲也(東工大総合理工)・清野直子(気象研)
東アジア春季に頻発するダストストームと低気圧活動との関連性
- C107 林政彦・山下克也(福岡大理)他 4名
西日本上空の対流圏エアロゾルの粒径分布直接観測
- C108 兼保直樹(産総研)・五十嵐康人(気象研)他 3名
富士山頂における大気エアロゾル長距離輸送の観測 - 2003年5月に到達したシベリア森林火災煙の化学・微物理特性 -
- C109 古賀聖治・前田高尚(産総研)他 1名
発生地域別に比較したエアロゾル粒子中の黒色炭素濃度の割合
- C110 茂木信宏・近藤豊(東大先端研)他 8名
レーザー誘起白熱法による単一黒色炭素粒子の観測
- C111 宮川拓真・竹川暢之(東大先端研)他 3名
都市大気エアロゾルの粒子密度および形状因子の見積もり
- C112 宮澤武志・岩坂泰信(名大)他 6名
顕微 FT-IR・蛍光顕微鏡によるエアロゾル粒子表面分析の結果
- C113 直江寛明・岡田菊夫(気象研) 核生成領域におけるエアロゾル粒子の混合状態
- C114 竹村俊彦(九大応力研) 全球エアロゾルモデルによる第2種エアロゾル間接効果の解析

座長：須藤健悟(地球環境フロンティア)

- C115 村田功(東北大環境)・佐藤薫(極地研)他 5名
GPS付き光学オゾンゾンデによる上部成層圏オゾン観測
- C116 吉識宗佳・秋吉英治(環境研) 北極域夏期におけるオゾン波状構造の年々変動
- C117 林田佐智子・池田奈生(奈良女子大理)他 3名
CIONO/ILAS と HCl/HALOE の解析に基づく極域成層圏における塩素化学種分配と Cl₂ 推定
- C118 秋吉英治・菅田誠治(環境研)他 2名
北極圏内オゾン破壊の極域外への影響について
- C119 中島英彰・杉田孝史(環境研)他 6名
ILAS-II Ver. 1.4 データ質検証とそれを用いた 2003 年南極オゾンホール解析
- C120 関山剛・柴田清孝(気象研)他 3名
成層圏におけるオゾンと気温の 11 年太陽周期変動: 3 次元化学輸送モデルと ECMWF 再解析値を用いた 40 年シミュレーション

午後(13:30 ~ 17:00)

物質循環 II

座長：須藤健悟(地球環境フロンティア)

- C151 中村憲司・近藤豊(東大先端研)他 2名
冬季-春季北太平洋域における大陸起源窒素酸化物の分布と対流圏オゾンに対する影響
- C152 北和之・林ひとみ(茨城大理)他 2名
熱帯域中部対流圏オゾン増大層と中緯度からの輸送
- C153 松田和秀・戸塚積(酸性雨研究センター)他 2名
タイ北部熱帯林におけるオゾンフラックス観測(2)
- C154 須藤健悟・秋元肇(地球環境フロンティア)他 1名
対流圏 O₃・CO₂ 全球分布の各ゾンス域による分離: 汚染物質はどこから、どれくらい流れてくるか?
- C155 柴崎和夫(國學院大)・川上修司(JAXA)他 5名
インドネシアにおけるオゾンゾンデ長期観測

座長：田口彰一(産総研)

- C156 入江仁士・須藤健悟(地球環境フロンティア)他 8名
1996-2001 年における東アジアの対流圏 NO_x 量の増加傾向 - GOME データの解析 -
- C157 岩嶋樹也(京大防災研)・森山茂(日大生産工)他 1名
都市とその周辺における大気メタン濃度差 - 欧州・北米・日本の諸都市についての比較 -
- C158 朝野晃司・小池真(東大院理)他 4名
陽子移動化学イオン化質量分析計(PTR-MS)による都市域揮発性有機化合物の観測
- C159 福田真人・近藤豊(東大先端研)他 4名
都市域における窒素酸化物の挙動に関する研究
- C160 伊藤昭彦(地球環境フロンティア) 2002-2003 年の高い大気 CO₂ 濃度上昇は陸域の高温による呼吸放出量の増加が原因か?
- C161 小田知宏・町村尚(阪大院)他 1名
メソスケールにおける CO₂ ソース・シンク逆解析のための GA の応用
- C162 田口彰一(産総研)・横内陽子(環境研)他 1名
相模湾上空で観測された HCFC-22 の濃度について
- C163 寺田宏明・茅野政道(原研) 広域原子力事故時の大気拡散予測モデル MMS/GEARN のチェルノブイリデータによる性能評価
- C164 風岡亮・木田秀次(京大院理) 日本付近に到達する空気塊輸送経路の確率分布
- C165 香川晶子(富士通エフ・アイ・ピー)・笠井康子(NICT)他 2名
対流圏 CO の大陸間輸送 - アラスカ州バーカーフラットからの後方流跡線解析 -
- C166 宮崎和幸・岩崎俊樹(東北大院理)他 2名
化学特性/大気寿命が異なる大気微量成分の予午面輸送特性の比較
- C167 一柳錦平・栗田直幸(地球環境観測研究センター)他 1名
観測フロンティアにおけるアジア域の降水同位体観測のまとめ
- C168 笠井康子(NICT)・齊藤龍(Max Planck Institut fur Aeronomie) 成層圏・対流圏における H₂O-O₂ 錯体の存在量とそのふるまい

大気境界層 I

座長：玉川一郎(岐阜大流域圏科学)

- C169 玉川一郎(岐阜大流域圏科学)・民田晴也(名大全校技術)他
CAPS2002 観測データと CReSS による数値シミュレーションとの比較
- C170 丸山篤志(九州沖縄農業研究センター)・桑形恒男(農環研)他 2名
群落微気象モデルによる葉面結露のシミュレーション
- C171 伍培明・佐々木太一(地球環境観測研究センター)他 3名
インドネシアカリマンタン島で観測された可降水量の日変化
- C172 松島大(東北大院理) パルク式における空気力学と放射温度計測の関係
- C173 堀口光章・植田洋匡(京大防災研)他 3名
中立に近い安定度の対流圏境界層における乱流の構造 - 観測と数値実験 - (II)

大会第1日〔10月6日〕 D会場

(~~~~は講演者を表す)

午前(09:30 ~ 12:30)

午後(13:30 ~ 17:00)

大気力学

座長：村上茂教(地球環境フロンティア)

- D101 森厚(東京学芸大) 独立成分分析による鉛直モードの分離の試み
- D102 坂本圭・高橋正明(東大気候システム) 対流ジャンプと中緯度偏西風帯トラフに伴う上層の高渦位との関係性
- D103 趙南・高橋正明(東大気候システム) Zonally Symmetric Normal Modes under a Seasonally Varying Background Climatology
- D104 村上茂教(地球環境フロンティア)・鬼頭昭雄(気象研) 最大エントロピー生成仮説に基づく最も簡単な一次元気候モデルの Euler-Lagrange 方程式
- D105 大淵濟(地球シミュレータ)・山田由貴子(北大院理) 他3名 水惑星実験における時間・帯状平均量のモデル解像度依存性
- D106 田中博(筑波大生命環境/FRCGC)・渡来靖(筑波大陸域環境) JRA-25, ERA-40, NCEP/NCAR 再解析データにおける全球エネルギーサイクルの比較
- D107 田中博(筑波大地球環境/FRCGC)・寺崎康児(筑波大生命環境) Rhines スケールへのエネルギーの集積とブロッキング形成
- D108 日尾泰子・余田成男(京大) 主成分分析による周期的な変動の解釈—二次元球面順圧モデルにおける極渦の準周期、周期変動について—
- D109 前島康光(九大総理工)・伊賀啓太(九大応力研) 帯状収束雲に伴うメソ α, β スケールの擾乱に関する線形安定解析
- D110 伊賀啓太(九大応力研) 地衡流ジェットから渦列を形成する際に混合の及ぶ範囲について
- D111 谷口博・石渡正樹(北大院地球環境) 東西一様基本場に於ける慣性不安定(4) —中立波の共鳴による東西非対称モードと東西対称モードの解釈—
- D112 三村和男・松島和宏(東海大教養) 傾圧性と惑星規模ベータ効果と併せ持つ室内実験
- D113 雪本真治・野口尚史(東海海洋研) 他3名 吸い込み渦のレンジムと非線形境界層
- D114 板野稔久(防大地球海洋) 非軸対称な台風眼の形成に関する線形解析
- D115 小田昌人・板野稔久(防大地球海洋) 他2名 非軸対称な2重渦構造と蛇行運動との関係について
- D116 北村祐二(京大)・松田佳久(東京学芸大) 回転成層流体における乱流パラメタリゼーションスキームの検証
- D117 Luce Hubert(LSEET-LEPI, Toulon South Univ.)・深尾真一(京大生存研) An attempt of classification of atmospheric stable sheets from high resolution temperature profiles of the MUTSI campaign
- D118 高木征弘(東大理)・松田佳久(東京学芸大) 雲層加熱による金星大気スーパーローテーションの数値実験
- D119 間瀬博文(所属なし) ジェット気流発生から温帯低気圧発達までを完全に統合。発見された真の向心力

中層大気

座長：向川 均(京大防災研)

- D151 向川均(京大防災研)・廣岡俊彦(九大理) 対流圏へ下方伝播する北極振動の予測可能性 — 2003年1月の事例解析—
- D152 山本美弘・伊藤久徳(九大理) 帯状非一様な基本場の下での波の鉛直伝播
- D153 川村誠治・村山泰啓(NICT) 中間圏・下部熱圏領域における電子密度変動に対する大気重力波の寄与
- D154 河谷芳雄(地球環境フロンティア)・高橋正明(東大気候システム/地球環境フロンティア) 他2名 大気大循環モデルに現れた赤道域の重力波分布
- D155 河本望(JAXA/EORC)・廣岡俊彦(九大理) 他2名 北半球夏季のオゾン場に見られる西進波について
- D156 柴田清孝・出生真(気象研) 熱帯成層圏準2年振動(QBO)のシミュレーション：その1 Non-interactive オゾン
- D157 久保博司・三好勉信(九大理) 成層圏、中間圏半年周期振動の成因についての解析
- D158 坂井亜紀子・廣岡俊彦(九大理) 南半球成層圏における波数2の東進波について
- D159 佐藤薫・橋田元(極地研) 他12名 第44次日本南極地域観測隊によるオゾンホール観測
- D160 佐藤薫・堤雅基(極地研) 他4名 南極昭和基地大型大気レーダー計画(PANSY)の現状
- D161 中村卓司・津田敏隆(京大生存研) 他5名 Kototabang 流星レーダー(0S, 100E)による赤道中間圏・下部熱圏の観測

中高緯度大気

座長：稲津 将(東大気候システム)

- D162 澤井哲滋(気象研) 関東地方の夏の高温イベント—総観場のパターン分け—
- D163 岩本勉之(防災科研)・立花義裕(東海大) 他2名 オホーツク海の大気熱収支と海氷・オホーツク高気圧との関係—ロシアの高層気象観測データによる解析—
- D164 菅場亙起(釧路地方気象台)・山崎孝治(北大院地球環境) オホーツク海高気圧時の雲量と海面熱フラックスについて
- D165 大島和裕・山崎孝治(北大院地球環境) 極域における水蒸気輸送の季節変化
- D166 宮本健吾(AESTO/気象庁)・行本誠史(気象研) 他2名 MRI/JMA 高分解能全球大気モデルにおける中緯度循環場の経年変化特性
- D167 堀田大介・中村尚(東大院理) SVD解析による、船舶観測に基づく海面気圧データを用いた過去100年間の中緯度移動性擾乱活動の復元
- D168 稲津将・木本昌秀(東大気候システム) 温暖化時のストームトラックの真冬の振動極小
- D169 直江寛明(気象研)・松田佳久(東京学芸大) 太平洋ブロッキングと強制ロスビー波
- D170 庭野匡思(富山地方気象台)・榎原均(気象研) 急発達中の低気圧内で見られる下層渦位の増加過程

ポスターセッション [10月6日] 17:00 ~ 18:00

(~~~~は講演者を表す)

- P101 木下正博(滑川高)・市瀬和義(富山大教育)他 1 名
富山湾における層気楼の発生理由 VI ~ 定点カメラによる観測~
- P102 本庄薫(富山大院教育)・市瀬和義(富山大教育)他 4 名
琵琶湖における層気楼の発生理由 III ~ 暖気形成過程~
- P103 平原淳・横上良雄(佐賀地方気象台)他 4 名 2004 年
6 月 27 日佐賀県で発生したつ巻の特徴(1)
- P104 宮田浩・平原淳(佐賀地方気象台)他 4 名 2004 年 6
月 27 日に佐賀県で発生したつ巻の特徴(2)
- P105 中里真久・石部勝(気象研)他 4 名 ダウンバースト
の最大風速の推定とレーダー及びゾンデデータを用いた診断手法への応用
- P106 武田真志・藤部文昭(気象研) 3 次元レーダーデータ
による対流性エコーの特徴についての調査(序)(2003 年 6 月 17 日に沖縄周辺で観測された対流システムを例として)
- P107 東邦昭・藤井健(京都産業大院理) 2003 年 4 月 8 日
に京阪神地域で発生した線状降水帯の事例解析
- P108 橋本泰子・手柴充博(京大生存研)他 3 名 2004 年 8
月 1-2 日に発生した四国豪雨の研究
- P109 岩波越(防災科研)・花土弘(NICT)他 2004 年沖縄梅
雨集中観測における Ka バンドレーダー観測結果速報
- P110 片岡彩・里村雄彦(京大理) バングラデシュ北東部
における夜間の降水極大に関する数値実験
- P111 大井淳・余偉明(東北大院理)他 1 名 首都圏におけ
る晴天日に発生した短時間強雨の数値シミュレーション~都市の影響について~
- P112 青梨和正・永戸久喜(気象研)他 1 名 衛星搭載マイ
クロ波放射計データの非静力雲解像モデルへの同化法の開発(その 1)
- P113 瀬古弘・笹岡雅宏(気象研)他 2 名 ウィンドプロフ
アイラーで観測した屈折率の鉛直勾配の同化実験(その 1)
- P114 坪田孝政(慶應義塾高)・小笠原麻喜(東大海洋研)他
2 名 メソスケール気象モデルのルーチン運用とその教材化(2)
- P115 岩本勉之・中井専入(防災科研)他 2 名 降雪雲に対
する地形の力学的効果- NHM による 2003 年 1 月の降雪再現実験から-
- P116 濱田篤・西憲敬(京大院理)他 8 名 ミリ波雲レーダ
を用いた GMS split-window 雲種判別テーブルの開発(2)
- P117 中澤哲夫・北島尚子(気象研)他 4 名 Baiu Hunter
2004 の観測概要について
- P118 別所康太郎・中澤哲夫(気象研)他 3 名 Baiu Hunter
2004 エアロゾンデ観測の概要
- P119 森一正・周兵(気象研)他 5 名 Baiu Hunter 2004 ド
ップラーレーダー観測速報
- P120 井上豊志郎(気象研) Meteosat-8 による下層雲の解
析と TMI による観測要素の対応
- P121 門田和士・牛尾知雄(大阪府立大)他 4 名 気象用ブ
ロードバンドレーダの初期観測結果
- P122 折笠成宏・村上正隆(気象研)他 6 名 非接触型雲粒
子ゾンデの開発と飛揚観測
- P123 北村彩子・泉岳樹(都立大理)他 1 名 空間分布を考
慮した大気補正による衛星データからの地表面温
度の推定
- P124 石坂雅昭・中井専入(防災科研)他 4 名 連続自動観
測による降雪粒子種の判別とその範疇
- P125 磯田綾子(JST)・青梨和正(気象研)他 2 名 新しい降
水リトリバルアルゴリズムによって計算された
TMI、AMSRE の降水量を用いた全球降水マップ
の作成
- P126 飯田泰久・岡本謙一(大阪府立大理工)他 2 名 全球
降水観測(GPM)ミッションのためのマイクロ波放
射計を搭載した衛星群による平均降水強度推定の
サンプリングシミュレーション-サンプリングエ
ラーの推定とミッション要求の検討-
- P127 中川清隆・長坂裕一(上越教育大) 暖候季における
わが国大気重心高度重力加速度の地表面高度およ
び気温からの推定
- P128 中川清隆・長坂裕一(上越教育大) Bernese4.2 解析
結果からの GPS 可降水量の自動算出
- P129 島山賀史(千葉大)・高村民雄(千葉大 CEReS)他 2 名
モンゴル地域における Direct PAR データを用い
たエアロゾルの光学的厚さの推定
- P130 石田春麿・浅野正二(東北大理) ウェーブレット関
数展開を用いた放射伝達計算手法の開発
- P131 足立透・福西浩(東北大理)他 7 名 ROCSAT-
2/ISUAL による雷放電発光現象のグローバル観測
: アレイフォトメータによる観測
- P132 福西浩・高橋幸弘(東北大理)他 7 名 ROCSAT-
2/ISUAL による雷放電発光現象のグローバル観測
: 初期結果
- P133 山森美穂・村山泰啓(NICT)他 4 名 アラスカ・ポー
カーフラット FTIR による ILAS-II v1.4 オゾンデ
ータの検証
- P134 安成哲平(北大院地球環境)・本堂武夫(北大低温研)
他 8 名 アラスカ・ランゲル山の雪面と大気ダスト
変動及びそれに基づく雪氷コアのダスト解析
- P135 飯野真子・木下紀正(鹿児島大) Streakline analysis
of the 18 August 2000 eruption cloud of Miyakejima
- P136 原智宏・大場良二(三菱重工長崎研)他 5 名
RAMS/HYPACT コードによる筑波山を対象とした
気流・拡散シミュレーション
- P137 大塚彰・松村正哉(農研機構)他 4 名 イネウカ類
飛来シミュレーションモデルの検証

- P138 原田和博・佐竹晋輔(九大)他 2 名 2001 年と 2002 年 4 月におけるタリム盆地周辺の局地気流とダスト輸送のモデル解析
- P139 朱彬・秋元肇(地球環境フロンティア) Meteorological impacts on eastern Asia surface ozone during 1996-1998
- P140 松木篤・岩坂泰信(名大)他 13 名 不均一反応による硫酸塩の生成: 鉱物粒子の組成と表面における水分の重要性について
- P141 佐藤弘樹・北和之(茨城大理)他 5 名 オゾンゾンデで観測されたタイにおける春季高濃度対流圏オゾンと積雲対流の関係
- P142 野上道守・近藤豊(東大先端研)他 2 名 都市域における有機性炭素と元素状炭素の季節変化
- P143 佐賀勝己・林政彦(福岡大)他 2 名 福岡における硝酸の粒子化のプロセス
- P144 坂野井和代・村山泰啓(NICT)他 3 名 アラスカでのライダー・レーダー観測による中間圏擾乱・大気波動と成層圏突然昇温の関連(その 2)
- P145 鈴木臣・塩川和夫(名大 STE 研)他 4 名 中間圏の大気光画像中に現れた湾曲波面を持つ大気重力波の構造
- P146 野田理理沙・玉木克美(福岡大理)他 1 名 内部加熱による傾圧波動 一室内実験と数値シミュレーション
- P147 城戸敦寛(九大総理工)・和方吉信(九大応力研) 大気加熱強制による金星高速東西流の再現実験
- P148 山下陽介(東大気候システム)・田中博(筑波大地球環境/地球環境フロンティア)他 1 名 北極振動のライフサイクルの解析的研究
- P149 甲斐千尋・山内明子(東洋大院生命科学)他 1 名 エルニーニョ及びラニーニャにおける局所的フラクタル次元の性質について
- P150 東恩貞・木本昌秀(東大気候システム) Summertime ENSO teleconnection over the Eurasia
- P151 横井寛・里村雄彦(京大院理) アジアモンスーン夏季に見られる submonthly-scale 擾乱の移動メカニズム
- P152 Zainul Akramin・古津年章(島根大)他 3 名 スマトラ・コトダバンにおける雨滴粒径分布の季節内変動
- P153 藤田美季子(地球環境観測研究センター)・木村富士男(筑波大地球科学)他 2 名 タイにおける可降水量日変化の季節特性
- P154 永野良紀(日大地球情報) チベット高気圧の北偏と前線出現の関係
- P155 関隆則(日本気象予報士会)・上條賢一(東洋大院生命科学) 気温日較差変動の LFD 解析一梅雨前後の気象変動を例として
- P156 小倉知夫・江守正多(環境研)他 1 名 雲水/雲氷分布が気候感度に及ぼす影響(第 2 報)
- P157 五十嵐弘道(地球環境フロンティア)・小守信正(地球シミュレータ)他 1 名 土壌水分量の初期値が大気に与える影響の季節依存性について
- P158 佐々木秀孝・栗原和夫(気象研)他 7 名 大気・海洋結合地域気候モデルの開発
- P159 大石龍太・千喜良稔(東大気候システム)他 1 名 動態植生結合大気大循環モデルを用いた気候最適期の植生・気候再現実験
- P160 太平満・高橋桂子(地球シミュレータ)他 1 名 高精度差分スキームを用いた全球・非静力学大気シミュレーションコードの力学コアの検証
- P161 小峯賢治・高橋桂子(地球シミュレータ)他 1 名 全球・非静力学大気シミュレーションコードへの乱流モデルの導入と検証
- P162 西澤慶一・北端秀行(電中研)他 3 名 大気海洋結合モデル CCSM3 を用いた 21 世紀の地域水収支変化の予測
- P163 西森基貴(農環研)・鬼頭昭雄(気象研) 統計的ダウンスケーリング手法による温暖化時の日本域夏季降水予測一降水の頻度と強度一
- P164 山本晴彦(山口大)・張権継(東北師範大)他 1 名 旧満州における気象観測業務の変遷と気象観測資料の保存状況について
- P165 斎藤琢・熊谷朝臣(九大)他 3 名 ボルネオ熱帯雨林における夜間 CO₂ フラックス一安定度が乱流変動法による CO₂ フラックス計測に与える影響について
- P166 兎玉裕二・栗田孝(北大低温研)他 3 名 森林内の積雪量と融雪量分布
- P167 李相勳(日大院地球情報) 韓国における冬季降雪量の経年変化
- P168 山崎仁太郎・木田秀次(京大院理) 阪奈地域の局地風循環に対する生駒山系の存在の効果と影響
- P169 岡本健・加藤創史(名大院環境)他 1 名 MODIS データを用いた地表面熱収支解析
- P170 萩野谷成徳(気象研) 結露量の測定
- P171 栗田進(気象研) 局在するブロックキャノピーとその周囲の風洞実験
- P172 今里真之(熊本大)・富田智彦(熊本大/地球環境フロンティア) 中規模都市における夜間冷却率について

大会第2日〔10月7日〕 09:15～12:00

(〰は講演者を表す)

A 会場

スペシャルセッション

「気象情報と防災－2003年夏の水俣市土石流災害は減災し得たか」

座長：金崎 厚(鹿児島地方気象台)

豪雨のメカニズム

A201 加藤 雅之(気象研) 甌島ラインの発生・維持メカニズムと数値モデルでの予想可能性

研究段階の観測手法及び予測手法

A202 三隅良平・真木雅之(防災科研)他3名 Xバンドレーダー・分布型流出モデル・斜面安定解析を統合した土砂災害(表層崩壊)危険域予測システム

A203 真木雅之・岩波越(防災科研)他2名 3cm 波長マルチパラメータレーダ観測から得られる高精度・高分解能の雨量情報

防災機関の対応

A204 松本 積・村田和人(福岡管区気象台)他2名 水俣市の大雨災害時における防災気象情報と今後の課題

A205 園村 伸(熊本放送)・弘中秀治(日本気象予報士会) 2003年夏の水俣市土石流災害 報道機関の対応～熊本放送の場合

問題点と今後の対応

A206 久保田哲也・大槻恭一(九大院農)他1名 山地災害の警戒・避難基準に使用する観測雨量及びインターネット降水短時間予報値の役割と地域的誤差

A207 永松 伸彦・秦康範(人と防災未来センター)他2名 2003年水俣市土砂災害における災害情報伝達の実態と課題

A208 生山 泰行(東北大災害制御) リアルタイム豪雨情報を巡る課題

A209 原田 慎夫(日本気象協会) 気象災害時の情報の利活用－ホームページとメールの相乗効果に注目して－

A210 草野 徹也(水俣市役所)・弘中秀治(宇部市役所) 水俣豪雨災害について－防災のまちづくりに向けて－

総合討論

※持ち時間：15分

B 会場

気候システムⅢ

座長：黒田友二(気象研)

B201 馬場 賢治・若土正暁(北大低温研) 南極海における季節内変動に伴う海氷タイプの変化について

B202 木村 詞明(北大低温研) 南極海水域の変動と風速との関係

B203 力石 國男・大竹秀明(弘前大理工)他1名 北半球の海氷面積変動のテレコネクション

B204 本田 明治(地球環境フロンティア)・浮田 甚郎(コロンビア大)他6名 冬季北半球海氷域変動にかかわるNAOとENSO

B205 荒井 美紀・木本昌秀(東大気候システム) AGCMで表現されるブロッキング現象の解像度依存性

B206 黒田友二(気象研) 北極振動形成における子午面循環の役割

B207 堀正 岳(筑波大環境科学) ユーラシア大陸上の積雪季節進行と対応する大気変動

B208 中村 哲(東海大)・立花 義裕(東海大/地球環境フロンティア)他2名 AOはENSOを駆動するか?

座長：植田宏昭(筑波大生命環境)

B209 山崎 信雄・高橋清利(気象研) 2002年夏季のインド旱魃とインド洋の海面水温の影響

B210 林 泰一(京大防災研)・寺尾 徹(大阪学院大情報)他3名 バングラデシュにおける夏季モンスーンの研究

B211 野津 雅人・荻野 慎也(神戸大)他2名 乾期インドシナ半島における安定層の生成消滅メカニズム

B212 井上 智恵・植田宏昭(筑波大生命環境)他1名 Split Window データおよびTRMM から見たベンガル湾における雲の時空間的特徴

B213 V.S. Prasad (National Center For Medium Range Weather Forecasting)・林 泰一(京大防災研) The indices of Asian Summer monsoon and the Indian monsoon breaks

B214 植田宏昭(筑波大)・川村 隆一(富山大) 熱帯アジア域における熱源の直接・間接影響－1999,2000,2001年のアフガンの旱魃・西部北太平洋の高温化－

B215 大庭 雅道・植田宏昭(筑波大生命環境) ENSOに関連したインド洋の全域昇温

B216 長谷川 拓也(気象研)・花輪 公雄(東北大院理) エルニーニョ現象の長周期変動と海洋表層貯熱量の10年スケール変動の関係

B217 鬼頭 昭雄(気象研) 全球気候モデル1000年ランにおけるENSO-モンスーン関係の長期変動

C 会場

D 会場

大気境界層 II

座長：栗原和夫(気象研)

- C201 栗原和夫(気象研)・堀見浩(気象環境サービス)他 3 名 非一様面上からのフラックスに関する風洞実験(海水を想定した場合)
- C202 余偉明(東北大院理) Development of an urban meteorological numerical model in Cartesian coordinate
- C203 近藤裕昭(産総研)・亀卦川幸浩(富士総研)他 1 名 都市キャノピーと熱帯夜の関係について
- C204 山田哲二(米国 YSA 社) 気象モデルと流体力学モデルの両方の機能を備えた新型モデルの開発と応用
- C205 高橋仁・中村健治(名大地球水循環)他 3 名 沖縄偏波降雨レーダ(COBRA)による clear echo の観測
- C206 加藤輝之・林修吾(気象研)他 1 名 2004 年 7 月 20 日の東京周辺部の高温の原因について
- C207 宮腰紀之・廣瀬直之(新千歳航空候所)他 新千歳空港で観測された冷気塊の流出に伴う風の周期変動
- C208 藤田安弘・力石國男(弘前大理工) 清川だしの発生要因に関する研究
- C209 千葉修(高知大)・小林文明(防衛大)他 1 名 八甲田山系猿倉岳樹林被害の気象学的検証 - 2000 年 4 月 23 日の事例について -

環境気象

座長：近藤裕昭(産総研)

- C210 山本晴彦(山口大)・岩谷深(鳥取大)他 1 名 2004 年 6 月 27 日に佐賀市で発生した竜巻災害
- C211 川端一史・長谷川英尚(環境科学技術研究所)他 4 名 ヤマセ気象時に発生した霧水中水可溶性画分の化学特性
- C212 内田敏・児島紘(東京理科大)他 2 名 東アジアにおける水素イオンの湿性沈着量と降水の pH 分布の推定
- C213 皆已幸也(石川県農業短大)・藍川昌秀(兵庫県立健康環境科学研究センター)他 9 名 台風に伴う降水雲の化学組成の変化 - 酸性雨対策調査(環境省)の結果から -
- C214 升井孝男・萩原研二(国土環境)他 7 名 住宅地内に近接する裸地および芝生地の熱環境評価に関する現地観測調査
- C215 村山貢司・登内道彦(気象業務支援センター) 熱中症予防のための WBGT の簡易推定式
- C216 手島あかり(京大理)・林泰一(京大防災研)他 3 名 バングラデシュの伝染病に対する気象要素のインパクト

放射

座長：石元裕史(気象研)

- D201 真野裕三(気象研) 赤外窓領域における duststorm のスペクトルについて
- D202 Pradeep Khatri(名大院環境)・石坂隆(名大地球水循環)他 1 名 Numerical evaluation of relative humidity dependent optical properties of sub-micron aerosol particles(1.0 μm >d)over the East China Sea
- D203 岩淵弘信(地球環境フロンティア) モンテカルロ法を用いた三次元放射伝達モデルの開発と性能評価(II)

観測手法 I

座長：石元裕史(気象研)

- D204 小林隆久(気象研)・酒井哲(名大) 大気粒子の普遍的複合リモートセンシング手法
- D205 西沢智明・岡本創(東北大院理)他 4 名 Mirai 搭載の 2 波長偏光ライダーデータから導出されたエアロゾルの鉛直分布
- D206 塩原匡貴(極地研)・J.D.Spinhorne(NASA/GSFC)他 7 名 Micro-pulse lidar measurements at the Arctic and Antarctic sites for ground truth of the ICESat/GLAS cloud and aerosol measurements
- D207 長澤親生・阿保真(都立大院工)他 1 名 連続観測ライダーにより得られた赤道上空 cirrus の特性
- D208 中里真久・廣瀬保雄(気象研)他 4 名 二酸化炭素誘導ラマン散乱を用いたライダーによる対流圏オゾン観測
- D209 Richard E. Passarelli(Sigmat Inc.)・SIGMET JAPAN 他 2 名 気象レーダー用パルスコンプレッション技術の開発と実施例
- D210 橋口浩之・津田敏隆(京大生存研)他 7 名 MU レーダー超多チャンネルデジタル受信システムの開発
- D211 Gernot Hassenpflug・橋口浩之(京大生存研)他 3 名 MU レーダー超多チャンネルデジタル受信システムによる初期観測結果
- D212 古本淳一(京大生存研)・瀬古弘(気象研)他 2 名 差分法による大気レーダーを用いた大気水蒸気プロファイル推定法の開発(第 2 報)
- D213 越田智真(国土環境)・宮崎真(東大生産研)他 4 名 マイクロレインレーダによる降水量観測
- D214 圓山憲一・真木雅之(防災科研)他 2 名 X バンドマルチパラメータレーダから推定した雨量分布の検証
- D215 佐藤晋介・高橋暢宏(NICT)他 5 名 衛星搭載レーダーにおける最小測定降雨強度の改良
- D216 P.Kishore・五十嵐喜良(NICT)他 3 名 VHF radar observations of mean winds in the troposphere at Taiki-cho,Hokkaido and some comparison results with balloon wind measurements
- D217 柳野健(気象研) 1 台のドップラーレーダーによる上層風の詳細解析の研究
- D218 井上豊志郎(気象研)・河本和明(地球研) Split Window による下層雲の光学的厚さの推定について
- D219 石元裕史・山本哲(気象研)他 2 名 衛星画像と大気プロファイルデータを用いた夜霧の物理量推定

大会第3日〔10月8日〕 A会場

(〰は講演者を表す)

午前(09:15 ~ 11:30)

スペシャルセッション

「GAME でアジアモンスーンはどこまでわかったか?」I

地表面・大気境界層過程・AAN

座長：杉田倫明(筑波大生命環境)
檜山哲哉(名大地球水循環)

- A301**杉田倫明(筑波大生命環境) GAME Land Surface Processes/ABL/AAN Working Group：地表面過程
- A302*檜山哲哉(名大地球水循環)・M.Strunin(Central Aerological Observatory, Russia) 不均一地表被覆上の大気境界層内で観測された二つの卓越渦
- A303 杉田倫明・加藤秀和(筑波大生命環境)他1名 混合層バルク式による広域顕熱フラックスの推定
- A304*宮崎真(東大生産研)・安成哲三(名大地球水循環)他6名 モンゴル中部の草原における水文気象条件とその植生の成長への影響

梅雨前線帯の雲・降水過程

座長：上田博(名大地球水循環)

- A305**上田博・篠田太郎(名大地球水循環)他1名 GAME による梅雨前線帯及び周辺域の雲・降水システムの特性に関する理解の進展

チベット高原

座長：遠藤伸彦(地球環境フロンティア)

- A306*山田広堯(地球環境観測研究センター)・上田博(名大地球水循環)他4名 夏のチベット高原における降水過程の変遷 ～地表面と対流活動の密接な関係～
- A307 田中健路(熊本大工)・石川裕彦(京大防災研) チベット高原 Amdo における地表面エネルギーフラックス
- A308*栗田真幸(地球環境観測研究センター)・沼口敦(北大院地球環境)他2名 チベット高原における水蒸気輸送と水循環-降水の同位体比観測のこれまでと今後-
- A309*遠藤伸彦(地球環境フロンティア) チベット高原の大気境界層と地上気象要素の日変化-植生と雲の影響-

午後(13:30 ~ 17:00)

スペシャルセッション

「GAME でアジアモンスーンはどこまでわかったか?」II

ユーラシア寒冷圏

座長：大畑哲夫(北大低温研)

- A351**大畑哲夫(北大低温研/地球環境観測研究センター)・福島義宏(地球研)他1名 GAME-Siberia 1996-2003の研究活動と主要な成果

- A352*植寛慶樹・五十嵐弘道(地球環境フロンティア)他2名 北ユーラシアにおける広域水循環の長期変動の研究

領域気候・水循環モデリング

座長：里村雄彦(京大理)

- A353*大薬浩司(環境研) 東南アジアにおけるモンスーンオンセットに対する陸面の役割
- A354*鼎信次郎(地球研)・平林由希子(山梨大)他2名 “現実的”な陸面水文学の導入による夏の降水量の年々変動(1951-98)のAGCMによる再現性
- A355 佐藤友徳(筑波大/JST)・木村富士男(筑波大) 北東アジアの乾燥域形成に及ぼすチベット高原の顕潜熱加熱
- A356 杉本志織・余偉明(東北大院理)他1名 モンスーン期中の異なる総観場におけるチベット高原上での循環場の再現

大規模モンスーン変動

座長：松本淳(東大理)

- A357**松本淳(東大理) GAME-II モンスーンシステム研究で何がわかり何が課題として残されたか?
- A358*植田宏昭(筑波大) アジアモンスーンを駆動するもの～GAMEから何が見えてきたのか～
- A359 増田耕一(地球環境フロンティア)・松本淳(東大理)他3名 東南アジア大陸部の気候的降水量分布
- A360 木口雅司・松本淳(東大院理) インドシナ半島におけるプレモンスーン期の降水現象
- A361 石崎紀子・植田宏昭(筑波大生命環境) インドシナ半島とベンガル湾における夏季アジアモンスーンオンセット期の加熱場の季節変化
- A362 立花義裕(東海大総合教育)・東永祥(東海大総合情報)他2名 日周期変化が平均場へ及ぼす非線形効果-インドシナ・ラジオゾンデ集中観測-
- A363 谷田貝亜紀代(地球研)・Pingping Xie (NOAA) 他3名 アジアモンスーン地域のグリッド日降水データの作成
- A364 安成哲三・小澤晃(名大地球水循環) ユーラシア大陸における大気水収支変動

総合討論

座長：安成哲三(名大地球水循環)

※持ち時間：10分。ただし、*の講演は15分、**の講演は20分

大会第3日〔10月8日〕 B会場

(~~~~は講演者を表す)

午前(09:15 ~ 11:30)

スペシャルセッション「アジアダスト」I

ダストの発生過程

座長：三上正男(気象研)

- B301 石塚正秀(和歌山大)・三上正男(気象研)他3名 タクラマカン砂漠における飛砂発生量の土壌水分依存性の観測
- B302 杜明遠・米村正一郎(農環研)他5名 サルテーションフラックスの鉛直プロファイル
- B303 阿部修・小杉健二(防災科研)他6名 タクラマカン砂漠に面する天山・崑崙山脈中腹におけるダスト輸送量

アジアダスト粒子特性

座長：矢吹貞代(理化学研究所)

- B304 三上正男・青木輝夫(気象研)他4名 中国タクラマカン砂漠南部における春季エアロゾル粒径分布の観測
- B305 矢吹貞代(理化学研究所)・中村友紀(山形大院理工)他4名 中国タリム盆地北部、阿克苏における大気エアロゾルの特質
- B306 張代洲(熊本県立大環境共生)・岩坂泰信(名大院環境) 海塩成分の混合による黄砂粒子のサイズと組成の変化
- B307 山下克也・林政彦(福岡大理)他5名 九州北西部上空における鉱物と海塩の混合粒子の割合と形成プロセスの検討 一福岡県雷山上空での無人航空機観測より
- B308 鶴田治雄(東大気候システム/JST)・須藤重人(農環研)他8名 APEX 総合観測期間中に奄美大島で測定した春季の大気エアロゾル(2)PIXE 分析による微量元素中の土壌構成元素と人為起源元素

アジアダスト気候学

座長：黒崎泰典(気象研/JST)

- B309 山本享(国土環境)・吉野正敏(国連大/国土環境)他1名 東アジアにおけるダストイベント発生に関する総観気候学的研究
- B310 田少鶴(日大)・高垣修司(日大/ニッセン)他1名 黄砂飛来頻度の気候学的特徴および長期変動
- B311 黒崎泰典(気象研/JST)・三上正男(気象研) 東アジアにおける地域毎のダスト現象の特徴
- B312 荒生公雄・石坂丞二(長崎大)他6名 長崎地方における2004年春季の黄砂現象の特徴

総合討論

座長：三上正男(気象研)

午後(13:30 ~ 17:00)

スペシャルセッション「アジアダスト」II

アジアダストモニタリング

座長：杉本伸夫(環境研)

- B351 後藤誠・甲斐憲次(名大院環境)他6名 タクラマカン砂漠内のアクスにおけるライダー観測によるエアロゾルの鉛直分布とその季節変化

- B352 安井元昭(NICT)・周紀侠(中国科学院寒区旱区環境与工程研究所) 沙波頭で観測された境界層ダスト鉛直分布の時間変化の特徴
- B353 清水厚・杉本伸夫(環境研)他4名 ライダーネットデータによる2004年春季黄砂分布の観測
- B354 宮内章行(鹿児島大院)・飯野直子(鹿児島大)他3名 PIV 計測法による衛星画像を用いた黄砂移流解析の試み
- B355 山中のり子・久慈誠(奈良女子大)他5名 紫外域観測人工衛星データを用いた対流圏エアロゾルの推定と検証
- B356 五十嵐康人・黒崎泰典(気象研)他3名 人工放射性核種研究の風送ダスト研究との関連

風送ダスト発生・輸送のモデリング

座長：千葉長(気象研)

- B357 原由香里・佐竹晋輔(九大院総理工)他1名 ダスト発生機構におけるサルテーション過程導入の感度解析
- B358 竹見哲也(東工大院総理工) 乾燥地における雲対流によるダスト輸送過程の数値シミュレーション解析
- B359 清野直子(気象研) タリム盆地におけるダストストームの発生環境(2)
- B360 山本哲・清野直子(気象研) タリム盆地の風送ダスト飛散・輸送シミュレーション(2)
- B361 鶴野伊津志(九大応力研)・原田和博(九大院総理工)他2名 タリム盆地周辺の局地気流とダスト輸送のモデル解析(2)
- *B362 田中泰宙・千葉長(気象研) 全球モデルでみたアジアダスト～アジア起源のダストの寄与はどれくらいか?～

ダスト光学特性と放射強制力

座長：竹村俊彦(九大応力研)

- B363 青木一真(富山大)・荒生公雄(長崎大)他 太陽周辺光観測から得られた黄砂の光学パラメータの導出
- B364 萩原雄一朗・福島甫(東海大)他3名 日本周辺に飛来した黄砂の複素屈折率虚数部
- *B365 内山明博・山崎明宏(気象研)他4名 風送ダストの光学特性(Single Scattering Albedo)
- *B366 青木輝夫・内山明博(気象研)他2名 鉱物性ダストによる直接放射強制力に与える地表面の波長別アルベドの効果
- B367 千葉長・今井宏治(気象研)他2名 風送ダストと放射過程のカップリングに伴う影響について
- B368 佐竹晋輔(九大院総理工)・鶴野伊津志(九大応力研)他2名 領域型化学物質輸送・大気放射モデルによって示されたアジア域におけるエアロゾルの大気放射インパクト
- B369 高橋宙・田中泰宙(気象研)他3名 気象研エアロゾルモデル MASINGAR による鉱物ダストの放射強制力

総合討論

座長：三上正男(気象研)

※持ち時間：10分。ただし*のついた講演は12分。

大会第3日〔10月8日〕 C会場

(〰は講演者を表す)

午前(09:15 ~ 11:30)

熱帯大気 I

座長：吉村 純(気象研)

- C301 Rosbintarti Kartika Lestari・岩崎俊樹(東北大院理) Roles of the SST and Land-Sea Heat Contrast in the Seasonal March of the South Asian Summer Monsoon
- C302 山田由貴子(北大院理)・三瓶岳昭(東大理)他 6名 大気大循環モデルで表現される赤道域降水活動の解像度依存性
- C303 鈴木恒明(地球環境フロンティア)・江守正多(地球環境フロンティア/環境研)他 2名 赤道波と対流の結合メカニズムに関する考察
- C304 大塚成徳・余田成男(京大理) 熱帯対流圏中層の水平層状構造に関する数値実験
- C305 久保田拓志・向川均(京大防災研)他 1名 気象庁 1か月予報におけるマッデン-ジュリアン振動の予測可能性

座長：久保田尚之(地球環境観測研究センター)

- C306 浜田純一・森修一(地球環境観測研究センター)他 3名 インドネシア・スマトラ島東部平野域の対流・降水活動に関する研究
- C307 寺尾徹(大阪学院大情報)・Md. Nazral Islam(BUET)他 2名 自動気象観測装置を用いたバングラデシュにおけるメソ擾乱の解析
- C308 森修一(地球環境観測研究センター)・Findy Renggono(京大生存研/BPPT)他 5名 赤道大気レーダー(EAR)観測による降水タイプ別鉛直流プロファイル
- C309 古本淳一・津田敏隆(京大生存研)他 2名 赤道大気上下結合観測キャンペーンにおける EAR-RASS 観測の概要と初期結果
- C310 西憲敬(京大院理)・山本真之(京大生存圏)他 3名 赤道大気レーダーを用いた対流圏上層層状雲付近の鉛直循環の解析(2)
- C311 安永教明(AESTO)・岡本創(東北大院理)他 6名 海洋地球研究船「みらい」に搭載されたミリ波雲レーダーとライダーを用いて推定した熱帯海洋上における雲底の高度分布
- C312 岩崎彬紀(JAMSTEC)・円山憲一(防災科研)他 10名 Subvisual cirrus clouds の成因について
- C313 城岡竜一・米山邦夫(地球環境観測研究センター)他 12名 「みらい」と航空機の連携による西部熱帯太平洋上の降水システムの観測
- C314 勝俣昌己・米山邦夫(地球環境観測研究センター)他 8名 「みらい」と航空機の連携で観測された MJO 降水システム:2004年3月10日の事例
- C315 中田隆・城岡竜一(地球環境観測研究センター)他 7名 熱帯西部太平洋上における大気境界層のリカバリ過程について

午後(13:30 ~ 17:00)

気象教育

座長：寺尾 徹(大阪学院大情報)

- C351 高橋康哉(北海道教育大)・坪田幸政(慶応義塾高) SPP 教員研修事業'学校で使える気象情報を活用した最新天気'の科学'の実施

- C352 檜尾守昭(気象大) メソ気象に関する解析と予報技術の共用化に向けて(その2)ーコリオリ力および地衡風平衡の慣性座標系から見た解析ー

熱帯大気 II

寺尾 徹(大阪学院大情報)

- C353 久保田尚之・城岡竜一(地球環境観測研究センター)他 3名 ニューギニア島起源の日変化する対流活動と西進波とのカップリング
- C354 奥村夕子・謝尚平(ハワイ大) 赤道大西の半年周期変動:冬季冷却現象と気候変動
- C355 江口菜穂・塩谷雅人(京大生存研) 熱帯対流圏界面遷移層内における水蒸気の季節・経年変動
- C356 森田純太郎・高森縁(東大気候システム) TRMM 衛星データを用いた Madden-Julian 振動に伴う降水特性の解析:第2報 潜熱分布、海陸の比較
- C357 米山邦夫・勝俣昌己(地球環境観測研究センター) MJO 対流域通過に伴う鉛直湿度分布の変動

台風

座長：山崎信雄(気象研)

- C358 初鹿宏壮・筒井純一(電中研)他 2名 JRA-25 長期再解析プロジェクトー熱帯低気圧活動におよぼす季節内振動の影響ー
- C359 星野俊介・中澤哲夫(気象研) マイクロ波センサーのデータを用いた台風の強度推定法についての研究(第3報)
- C360 筆保弘徳・飯塚聡(防災科研)他 3名 インドシナ半島に上陸する台風のライフサイクルと内部構造
- C361 藤田浩史・手柴充博(京大生存研)他 5名 成熟期にある台風 0310 号(Etau)中心付近の詳細構造
- C362 手柴充博・藤田浩史(京大生存研)他 4名 気象庁 WINDAS を用いた台風 0315 号中心付近での風速変動
- C363 北島尚子・田中恵信(気象研) 移動速度の速い台風の中心位置と構造の対応

座長：那須野智江(地球環境フロンティア)

- C364 吉岡真由美(地球シミュレータ)・栗原宜夫(地球環境フロンティア)他 1名 高解像度全球大気シミュレーションによる熱帯低気圧の初期発生過程
- C365 古川祐貴・新野宏(東大海洋研)他 8名 地球シミュレータを用いたハリケーン Earl のライフサイクルの雲解像数値実験
- C366 倉田耕輔・高橋正明(気候システム研) 赤道付近で発生した台風 Vamei の解析と数値シミュレーション
- C367 吉村純(気象研)・大内和良(AESTO)他 3名 20km 格子全球大気モデルによる台風シミュレーションー地球温暖化の影響について[速報]ー
- C368 村田昭彦・上野充(気象研) 積雲対流が台風の壁雲の位置変化に与える影響
- C369 山脚正紀(地球環境フロンティア) 格子間隔 20km モデルにおける熱帯低気圧の振舞い
- C370 山下和也・余田成男(京大理) 台風の軸対称構造・非軸対称構造に関する数値実験ー 2000 年台風 12 号を例にー
- C371 上野充(気象研) 台風移動に関わる指向流の一算出法

大会第3日〔10月8日〕 D会場

(~~~~)は講演者を表す)

午前(09:15 ~ 11:30)

気候システムⅣ

座長：筒井純一(電中研)

- D301 望月崇・杉浦望実(地球環境フロンティア)他 4名
四次元変分法を用いた大気海洋陸域結合データ同
化システムによる気候値同化実験
- D302 高橋清利・山崎信雄(気象研)他 1名 JRA-25 長期
再解析プロジェクト---本計算の初期結果(潜熱、
顕熱分布について)---
- D303 釜堀弘隆・山崎信雄(気象研)他 1名 JRA-25 長期
再解析プロジェクト---本計算の初期結果(降水量
および可降水量分布について)---
- D304 上口賢治・鬼頭昭雄(気象研)他 1名 TRMM3B42、
GPCBIDD と Radar-AMeDAS の日降水相互比較
- D305 中澤哲夫・Kavirajan Rajendran(気象研) TRMM
PR/TMI から算出された陸上の月降水量比較

相互作用

座長：時長宏樹(北大院地球環境)

- D306 大泉三津夫(気象研)・平井雅之(気象庁数値予報)
MRI/JMA-SiB 積雪シミュレーションへの放射バイ
アスの影響
- D307 大泉三津夫(気象研) キャンピニー被覆率の陸面熱収
支へのインパクト
- D308 成松明(熊本大院自然)・田中健路(熊本大工)他 1名
有明海干潟域における大気-海面相互作用に関する
観測(序)
- D309 山内明子(東洋大)・小林裕司(宇佐美ダイビングセ
ンター)他 2名 浅層における深度別海水温の変動
解析 -高感度センサーとしての季節境界推定法-
- D310 岡部雅世・立花義裕(東海大/地球環境フロンティア)
夏期北太平洋の下層雲の年々変動と海洋の関
連性
- D311 時長宏樹・谷本陽一(北大院地球環境)他 7名 冬季
黒潮続流における海面水温フロント上での GPS ラ
ジオゾンデ観測
- D312 富田智彦(熊本大/地球環境フロンティア)・野中正
見(地球環境フロンティア) 北太平洋冬季海面水温
の年々変動に及ぼす表層強制の効果について
- D313 近本嘉光・谷本陽一(北大院地球環境) ENSO 対
する熱帯大西洋海面水温の南北非対称な応答
- D314 桜井敏之・栗原幸雄(気象庁気候・海洋気象部)他 1
名 気象庁・全球日別海面水温解析の運用開始
- D315 永井晴康・都築克紀(原研)他 1名 大気-陸面-水文
結合モデルの開発と砂漠地域における水循環予測
の試験計算

午後(13:30 ~ 17:00)

観測手法Ⅱ

座長：堀雅裕(JAXA/EORC)

- D351 久慈誠(奈良女子大理)・菊地信行(JAXA/EORC)他
1名 人工衛星近赤外放射観測データを用いた積算
水蒸気量の導出
- D352 中島孝(JAXA/EORC,千葉大 CEReS)・木村俊義
(JAXA/EORC)他 2名 ニューラルネットワークに
よる雲特性の推定試験(1)
- D353 堀雅裕(JAXA/EORC)・青木輝夫(気象研)他 12名
GLI 雪氷プロダクト(Ver.2)リリースと地上検証観
測報告

- D354 太田芳文・今須良一(東大気候システム) IMG
/ADEOS スペクトルデータからの気温・水蒸気解
析~装置関数の最適化とゾンデデータによる検証
~
- D355 今須良一・太田芳文(東大気候システム) 衛星搭載
熱赤外分光器による CO₂ 鉛直積算量の測定
- D356 笠井康子・高橋千賀子(NICT)他 JEM/SMILES 観測
リトリバルアルゴリズム
- D357 辻丸詔(NICT)・尾関博之(NICT/JAXA)他 8名
SMILES データ処理アルゴリズムの開発とその応
用 - Information content approach -
- D358 落合啓・入交芳久(NICT)他 2名 気球搭載サブミリ
波サウンダによる成層圏オゾンと ClO の観測
- D359 小司慎教・川畑拓矢(気象研)他 2名 GPS ダウンル
ッキング掩蔽法:Partial Bending Angleを用いた屈
折率解析に対する大気非一様性の影響
- D360 南川教宣・津田敏隆(京大生存研)他 3名 GPS 掩蔽
データ解析における高高度での温度プロファイル
導出法の改良
- D361 青梨和正(気象研)・瀬戸心太(NICT)他 2名 衛星搭
載マイクロ波放射計 AMSRE 降水強度リトリバ
ルアルゴリズムの開発(その2)

気象予報

座長：室井あし(気象研)

- D362 吉村裕正(気象研) 2重フーリエ級数を使用した全
球大気スペクトルモデルの開発
- D363 室井あし(気象研) 全球/領域統一非静力学モデル
の開発
- D364 三浦裕亮・富田浩文(地球環境フロンティア)他 1
名 正 20 面体格子上における移流スキームの開発
- D365 川畑拓矢(気象研)・若月泰孝(AESTO)他 7名 雲解
像度非静力学 4 次元変分法データ同化システムの
開発
- D366 林修吾・加藤輝之(気象研)他 2名 雲解像モデルを
用いた発雷予測手法の開発 (その 3) - 放電 (発
雷) 過程を組み込んだ発雷予測-
- D367 Ali Liaqat・木本昌秀(東大気候システム) Prediction
of Chaotic Time Series by Neural Networks
- D368 榎本剛(地球シミュレータ)・湖上弘光(NEC 情報シ
ステムズ)他 1名 Legendre 変換の高精度化と計算
量削減
- D369 門倉真二(電中研) 非静力学モデルと統計的手法を用
いた風速予測手法の評価
- D370 藤田司・石田純一(気象庁数値予報)他 12名 気象
庁非静力学メソ数値予報モデルの開発と現業予報
- D371 石田純一・大森志郎(気象庁数値予報)他 2名 2003
年 7 月の水俣の豪雨に対する気象庁非静力学モデ
ルと静力学モデルの予想結果の違いについて
- D372 村上裕之(AESTO/気象庁数値予報)・松村崇行(気象
庁数値予報) 高分解能気候モデルの台風予報検証
- D373 伊賀晋一・富田浩文(地球環境フロンティア)他 2
名 正二十面体格子モデル NICAM による温帯低気
圧ライフサイクル実験(2)-解像度依存性について-
- D374 國井勝・瀬古弘(気象研) ドップラーレーダーの動
径風を用いた台風 0221 号の同化実験
- D375 瀬古弘(気象研)・露木義(気象庁数値予報)他 2名
JNoVA0(NHM-3DVar システム)を用いたドップラ
ーレーダ動径風の同化実験(その2)

ポスターセッション [10月8日] 11:30 ~ 12:30

(~~~~は講演者を表す)

- P301 三笠啓太・伊藤久徳(九大院理) 夏の台風発生過程の再現実験
- P302 沢田雅洋・岩崎俊樹(東北大院理)他1名 台風の発達過程における境界層乱流混合過程の役割について
- P303 宮崎保彦(気象衛星センター) 熱帯低気圧発生とUpper Cold Low(2)
- P304 関谷真高・守田治(九大院理) 2003年7月20日南部九州で起きた集中豪雨の解析
- P305 市丸裕美子・守田治(九大院理) 2003年7月19日福岡豪雨における降水系のライフサイクルについて
- P306 内藤大輔・坪木和久(名大地球水循環)他4名 南西諸島で梅雨期に観測された降水セルの特徴
- P307 山根悠介・林泰一(京大防災研) 南アジアにおけるCAPEの時空間分布とメソ気象擾乱の発生について
- P308 鈴木博人(東日本旅客鉄道)・高橋日出男(東京学芸大) 関東平野における1時間降水量の空間代表性
- P309 島山拓治(日本気象協会) 非静力学気象モデルによる日本全域の高分解能予測と平成16年7月豪雨事例の検証
- P310 深尾一仁(岐阜大)・大澤輝夫(神戸大)他2名 MMSを用いた局地気象予測の可能性に関する検討(その3)
- P311 松下拓樹(工学気象研究所/千葉大院自然) 着氷性降水時における地上降水種の推定方法—2003年1月3日、関東平野の事例—
- P312 小谷野悠子(北大院地球環境)・藤吉康志(北大低温研)他1名 ミリ波レーダで観測された対流降雪雲の構造
- P313 佐藤晃(大阪府教育センター)・梶川正弘(秋田大資源工)他1名 フィンランド・ソダンキラでの降雪粒子・エアロゾルの観測(その3)
- P314 且下博幸(電中研)・Yong-Run Guo(NCAR) 他4名 次世代の領域気象モデルの3次元変分データ同化システム(WRF-3DVAR)を用いたGPS可降水量同化実験
- P315 吉田駿・榎本剛(地球シミュレータ)他1名 大気大循環モデルへの下層雲スキームの導入
- P316 野田暁・岩崎俊樹(東北大院理)他1名 下層雲のパラメタリゼーションスキームの開発その1.概要と予備試験
- P317 氏家将志・岩崎俊樹(東北大院理)他1名 下層雲のパラメタリゼーションスキームの開発その2.メソスケールモデルへの導入
- P318 佐藤可織・岡本創(東北大院理)他1名 95GHz雲レーダの交差偏波とドップラー速度を用いた巻雲の理論的解析
- P319 鈴木智美・道本光一郎(防衛庁)他2名 スプライトを発生させた冬季雷雲の電荷量推定
- P320 吉田幸生・浅野正二(東北大院理) 能動型・受動型センサを組合わせた氷晶を含む雲の微物理量導出アルゴリズムの開発
- P321 Marzuki・古津年章(島根大)他3名 Vertical Profile of Precipitation from Zenith-Looking Radars at Koto Tabang, West Sumatra
- P322 川上真哉・森厚(東京学芸大)他1名 大気重力波観測網の開発
- P323 尾塚賢二・林政彦(福岡大)他3名 無人航空機を用いた測風(1)
- P324 関澤信也(NICT) MSPC ウインドプロファイラの開発
- P325 牛尾知雄(大阪府立大)・磯田聡子(JST)他4名 全球雲赤外面像による移動ベクトルを用いたマイクロ波放射計データによる全球降水マップの補間手法について
- P326 橋爪寛(大阪府立大/JST)・重尚一(大阪府立大)他1名 マイクロ波放射計降雨推定における0°C高度の影響—1997/98 El Ninoに注目して—
- P327 篠田太郎(名大地球水循環)・米山邦夫(海洋研究開発機構)他3名 「みらい」に搭載されたマイクロ波放射計による熱帯海洋上の気温と水蒸気混合比の鉛直プロファイル観測
- P328 渡辺征春・奥村真一郎(JAXA/EORC)他3名 紫外後方散乱分光によるSO₂解析手法:Airborne-OPUSによる三宅島観測例
- P329 田中智寛・横田達也(環境研)他4名 CO₂: 4.8μm帯の吸収線パラメータの測定
- P330 大西将徳・渡辺雅之(京大)他1名 青空スペクトルの一次散乱モデルによる解析
- P331 亀田貴雄(北見工大)・藤田耕史(名大)他2名 日食時の気象の変化(2003年11月24日、南極ドームふじ観測地点での観測)
- P332 杉田孝史・横田達也(環境研)他6名 ILAS-IIによる成層圏気温・気圧の観測
- P333 齋藤尚子・杉田孝史(環境研)他7名 ILAS-II エアロゾル消散係数V1.4データ質評価
- P334 江尻省(環境研)・寺尾有希夫(ハーバード大)他6名 ILAS-II 観測によるN₂OとCH₄のV1.4データの検証
- P335 渡井智則(地球・人間環境フォーラム)・町田敏暢(環境研)他4名 西シベリア・ベレゾレチカにおける大気境界層内とその上空のCO₂濃度—航空機観測とタワー観測の比較(2)—
- P336 出生真・柴田清孝(気象研)他2名 気象研究所化学輸送モデルにおける輸送過程の精度評価
- P337 財前祐二・田中泰宙(気象研)他2名 エアロゾル化学輸送モデルを用いたPACE-7観測結果の再現

- P338 佐々井崇博(名大院環境)・市井和仁(San Jose State Univ.)他 2 名 衛星データを用いた陸域生物圏モデルの評価:モデル相互比較
- P339 藤田慎一・高橋章(電中研) 日本列島における硫黄化合物の乾性沈着量の推定
- P340 阿部桃子・近藤豊(東大先端研)他 11 名 都市大気起源 SO₂ の輸送中における酸化時定数の評価 - PEACE-C 航空機観測 -
- P341 座間公夫・近藤豊(東大先端研)他 2 名 化学輸送モデルを用いた夏季東京における高濃度 O₃ 再現と O₃ 律速状態の考察
- P342 柴田清孝・出牛真(気象研) 熱帯成層圏準 2 年振動(QBO)のシミュレーション:その 2 Interactive オゾン
- P343 山田義典・福西浩(東北大院理)他 1 名 南極昭和基地上空中間圏界面における Na 夜間大気光の液状パターンについて 2
- P344 金久博忠(気象大) 鉛直勾配を持つ帯状流中の順圧滴の振る舞い
- P345 乙部真人・玉木克美(福岡大)他 1 名 傾圧不安定波の位相速度の粘度依存性
- P346 水田亮(AESTO/気象研)・吉村裕正(気象研)他 2 名 20km 格子全球大気モデルにおける中緯度対流圏界面
- P347 小本雅世(地球環境フロンティア)・立花義裕(東海大)他 1 名 冬季北大西洋振動(NAO)と夏季オホーツク海高気圧の関係について
- P348 堀井孝憲・花輪英雄(東北大院理) エルニーニョの夏季から秋季における発達とその後の終息との関係
- P349 漬木亜矢子・高藪縁(東大気候システム) ENSO と西風バーストとの関係における MJO 西風期の順圧エネルギー変換の役割
- P350 原口慶子(津地方気象台)・川村隆一(富山大)他 1 名 南アメリカモンスーンの季節進行にみられる非対称性
- P351 植原孝造(防災科研) 大気循環モデルで再現された熱帯低気圧活動度の ENSO/インド洋ダイポール現象に対する関係について
- P352 柴垣佳明(大阪電通大)・古津年章(島根大)他 9 名 2004 年 4-5 月にインドネシア海洋大陸で行われた特別観測期間中の降水システムの特徴
- P353 辻野文剛・山本真之(京大生存研)他 4 名 インドネシア・スマトラ島で観測された数日周期の対流活動変動
- P354 山本真之(京大生存研)・西憲敬(京大理)他 10 名 赤道大気レーダーで観測された鉛直流変動 - CPEA 集中観測キャンペーンにおける解析 -
- P355 飯島慈悦・山崎剛(地球環境観測研究センター)他 2 名 地上気象観測データに基づく東シベリアにおける融雪時期の大気状態の変化
- P356 永井信(名大院環境)・市井和仁(San Jose State Univ.)他 1 名 熱帯の気候システムと植生変動との関連
- P357 足立恭将・保坂征宏(気象研)他 1 名 海氷の厚さが大気に与える影響
- P358 本井達夫・鬼頭昭雄(気象研) 気候モデルでシミュレートされた南極ロス・アムンゼン・ベリングスハウゼン海域の経年変動
- P359 渡辺力(森林総研)・江守正多(環境研)他 1 名 群落多層モデルをベースとする全球陸面モデルの開発
- P360 平林由希子(山梨大院)・鼎信次郎(地球研)他 1 名 陸面過程モデル MATSIRO による全球水文シミュレーション(1901-2000)
- P361 小玉知央・岩崎俊樹(東北大院理)他 2 名 地球温暖化に伴う平均子午面循環の変化
- P362 村上和隆・佐々井崇博(名大院環境)他 2 名 南北一次元エネルギー・物質循環統合モデルによる地球温暖化シミュレーション
- P363 吉田義勝・北端秀行(電中研)他 7 名 大気海洋結合モデル CCSM3 を用いた CO₂ 漸増実験
- P364 坂井大佐・伊藤久徳(九大理)他 1 名 気温場偏差の長期変動とその要因 - 地球温暖化に伴う異常気象の増減 -
- P365 山本篤・檜山哲哉(名大地球水循環)他 5 名 中国安徽省・寿县における大気境界層観測 - 熱収支インバランスに関する検討 -
- P366 原智宏・大場良二(三菱重工長崎研)他 2 名 RAMS による紅海沿岸を対象とした砂漠緑化シミュレーション
- P367 山口慎・中井専人(防災科研)他 1 名 最近 10 年間の山地積雪の変動
- P368 吉田保衡(九大院総理工)・鶴野伊津志(九大応力研)九州地域の局地風の季節変動と地域分布に関するモデル研究
- P369 松元三展・菅原広史(防大)他 1 名 冬季関東に発生する局地前線の発達及び後退に及ぼす気圧傾度の影響
- P370 笹岡雅宏(気象研) 境界層レーダーを用いた環境場の把握に関する研究
- P371 木下寛幸(気象研)・堀晃浩(気象環境サービス)他 1 名 光ファイバーを用いた 2 波長赤外線湿度計の試作
- P372 荒瀬良平・石田祐富(弘前大)他 CAPS2003 で観測されたブリュームの水平移動速度

講演者索引

<A>

- Abe Ayako(阿部彩子) B120
 Abe Momoko(阿部桃子) P340
 Abe Osamu(阿部修) B303
 Adachi Sachihō(足立幸穂) C105
 Adachi Toru(足立透) P131
 Adachi Yukimasa(足立恭将) P357
 Akiyoshi Hideharu(秋吉英治) C118
 Aoki Kazuma(青木一真) B363
 Aoki Teruo(青木輝夫) B366
 Aonashi Kazumasa(青梨和正) D361
 Aonashi Kazumasa(青梨和正) P112
 Arai Miki(荒井美紀) B205
 Araki Fumiaki(荒木文明) A151
 Arao Kimio(荒生公雄) B312
 Arasawa Ryohei(荒澤良平) P372

- Baba Kenji(馬場賢治) B201
 Bessho Kotaro(別所康太郎) P118

<C>

- Cha Eun-Jeong(車恩貞) P150
 Chiba Masaru(千葉長) B367
 Chiba Osamu(千葉修) C209
 Chikamoto Yoshimitsu(近本喜光) D313
 Chono Yohei(蝶野洋平) A165
 Chuda Takashi(中田隆) C315

<D>

- Daira Koji(大楽浩司) A353
 Deushi Makoto(出牛真) P336
 Du Mingyuan(杜明遠) B302

<E>

- Eguchi Nawo(江口菜穂) C355
 Eito Hisaki(永戸久喜) A108
 Ejiri Mitsumu(江尻省) P334
 Endo Nobuhiko(遠藤伸彦) A309
 Enomoto Takeshi(榎本剛) D368

<F>

- Fudeyasu Hironori(筆保弘徳) C360
 Fujibe Fumiaki(藤部文昭) B152
 Fujita Hiroshi(藤田浩史) C361
 Fujita Mikiko(藤田実季子) P153
 Fujita Shin-ichi(藤田慎一) P339
 Fujita Tsukasa(藤田司) D370
 Fukao Kazuhito(深尾一仁) P310

- Fukao Shoichiro(深尾昌一郎) D117
 Fukuda Masato(福田真人) C159
 Fukunishi Hiroshi(福西浩) P132
 Fukutomi Yoshiki(福富慶樹) A352
 Furukawa Yuki(古川祐貴) C365
 Furumoto Jun-ichi(古本淳一) C309
 Furumoto Jun-ichi(古本淳一) D212

<G>

- Gamo Minoru(蒲生稔) B160
 Geng Biao(耿驃) A105
 Gotoh Makoto(後藤誠) B351

<H>

- Hagihara Yuichiro(萩原雄一朗) B364
 Haginoya Shigenori(萩野谷成徳) P170
 Hamada Atsushi(濱田篤) P116
 Hamada Jun-ichi(浜田純一) C306
 Hara Tomohiro(原智宏) P136
 Hara Tomohiro(原智宏) P366
 Hara Yukari(原由香里) B357
 Harada Kazuhiro(原田和博) P138
 Harada Tsuneo(原田恒夫) A209
 Haraguchi Keiko(原口慶子) P350
 Hasegawa Akira(長谷川聡) B163
 Hasegawa Takuya(長谷川拓也) B216
 Hashiguchi Hiroyuki(橋口浩之) D210
 Hashiguchi Hiroyuki(橋口浩之) D211
 Hashimoto Akihiro(橋本明弘) B174
 Hashizume Hiroshi(橋爪寛) P326
 Hatakeyama Takuji(畠山拓治) P309
 Hatsushika Hiroaki(初鹿宏壮) C358
 Hayashi Masahiko(林政彦) C107
 Hayashi Syugo(林修吾) C206
 Hayashi Syugo(林修吾) D366
 Hayashi Taiichi(林泰一) B210
 Hayashida Sachiko(林田佐智子) C117
 Higashi Kuniaki(東邦昭) P107
 Hinokio Moriaki(檜尾守昭) C352
 Hio Yasuko(日尾泰子) D108
 Hirabayashi Yukiko(平林由希子) P360
 Hirose Masafumi(広瀬正史) A174
 Hirose Naoyuki(廣瀬直之) C207

- Hirota Nagio(廣田渚郎) B108
 Hiyama Tetsuya(檜山哲哉) A302
 Honda Meiji(本田明治) B204
 Honjo Kaoru(本庄薫) P102
 Hori Masahiro(堀雅裕) D353
 Hori Masatake(堀正岳) B207
 Horiguchi Mitsuaki(堀口光章) C173
 Horii Takanori(堀井孝憲) P348
 Hoshino Shunsuke(星野俊介) C359
 Hotta Daisuke(堀田大介) D167
 Hozumi Yu(穂積祐) B113

<I>

- Ichimarū Yumiko(市丸裕美子) P305
 Ichianagi Kimpei(一柳錦平) C167
 Iga Keita(伊賀啓太) D110
 Iga Shinichi(伊賀晋一) D373
 Igarashi Hiromichi(五十嵐弘道) P157
 Igarashi Yasuhito(五十嵐康人) B356
 Iguchi Takamichi(井口享道) A159
 Iida Yasuhisa(飯田泰久) P126
 Iijima Yoshihiro(飯島慈裕) P355
 Iino Naoko(飯野直子) P135
 Ikazaki Hideo(伊ヶ崎英雄) B153
 Imasato Yoshiyuki(今里喜之) P172
 Imasu Ryoichi(今須良一) D355
 Inatsu Masaru(稲津将) D168
 Inoue Tomotsugu(井上智垂) B212
 Inoue Toshiro(井上豊志郎) D218
 Inoue Toshiro(井上豊志郎) P120
 Irie Hitoshi(入江仁士) C156
 Ishida Haruma(石田春磨) P130
 Ishida Jun-ichi(石田純一) D371
 Ishihara Koji(石原幸司) B168
 Ishii Masayoshi(石井正好) B159
 Ishimoto Hiroshi(石元裕史) D219
 Ishizaka Masaaki(石坂雅昭) P124
 Ishizaki Noriko(石崎紀子) A361
 Ishizuka Masahide(石塚正秀) B301
 Isoda Fusako(磯田総子) P125
 Itano Toshihisa(板野稔久) D114
 Ito Akihiko(伊藤昭彦) C160
 Iwabuchi Hironobu(岩淵弘信) D203
 Iwama Shuji(岩間周二) B102
 Iwamoto Katsushi(岩本勉之) D163

Iwamoto Katsushi(岩本勉之)P115
 Iwanami Koyuru(岩波越) P109
 Iwasaki Suginori(岩崎杉紀) C312
 Iwashima Tatsuya(岩嶋樹也)C157

<K>

Kadokura Shinji(門倉真二) D369
 Kagawa Akiko(香川晶子) C165
 Kai Chihiro(甲斐千尋) P149
 Kamahori Hirotaka(釜堀弘隆)
 D303
 Kameda Takao(亀田貴雄) P331
 Kamiguchi Kenji(上口賢治) D304
 Kanada Sachie(金田幸恵) B173
 Kanae Shinjiro(鼎信次郎) A354
 Kanehisa Hirotada(金久博忠)
 P344
 Kaneyasu Naoki(兼保直樹) C102
 Kaneyasu Naoki(兼保直樹) C108
 Kanno Hiromitsu(菅野洋光) B103
 Karasuyama Satoshi(烏山智史)
 P129
 Kasai Yasuko(笠井康子) C168
 Kasai Yasuko(笠井康子) D356
 Kataoka Aya(片岡彩) P110
 Kato Kuranoshin(加藤内蔵進)
 A104
 Kato Teruyuki(加藤輝之) A109
 Kato Teruyuki(加藤輝之) A201
 Katsumata Masaki(勝俣昌己)
 C314
 Kawabata Hitoshi(川端一史)C211
 Kawabata Takiuya(川畑拓矢)
 D365
 Kawaguchi Kazuya(川口和哉)
 A101
 Kawakami Shinya(川上真哉)
 P322
 Kawamoto Kazuaki(河本和明)
 B118
 Kawamoto Nozomi(河本望) D155
 Kawamura Ryuichi(川村隆一)
 B105
 Kawamura Seiji(川村誠治) D153
 Kawase Hiroaki(川瀬宏明) A113
 Kawatani Yoshio(河谷芳雄) D154
 Kayaba Nobuyuki(萱場互起)D164
 Kayahara Takahiro(栢原孝浩)
 P351
 Kazaoka Ryo(風岡亮) C164
 Khatri Pradeep D202
 Kido Atsushige(城戸敦蒼) P147
 Kiguchi Masashi(木口雅司) A360
 Kikuchi Nobuhiro(菊地信弘)A162
 Kim Yoon-Suk(金潤奭) C104
 Kimura Fujio(木村富士男) A355
 Kimura Noriaki(木村詞明) B202

Kinoshita Masahiro(木下正博)
 P101
 Kinoshita Nobuyuki(木下宣幸)
 P371
 Kishore Pangaluru D216
 Kita Kazuyuki(北和之) C152
 Kitabatake Naoko(北畠尚子)C363
 Kitamura Ayako(北村彩子) P123
 Kitamura Yuji(北村祐二) D116
 Kitoh Akio(鬼頭昭雄) B217
 Kobayashi Fumiaki(小林文明)
 A120
 Kobayashi Takahisa(小林隆久)
 D204
 Kodama Chihiro(小玉知央) P361
 Kodama Yuji(兒玉裕二) P166
 Koga Seizi(古賀聖治) C109
 Koike Makoto(小池真) C158
 Kojima Masaya(小嶋正也) A173
 Komine Kenji(小峯賢治) P161
 Kondo Hiroaki(近藤裕昭) C203
 Konishi Hiroyuki(小西啓之) A167
 Koshida Tomoki(越田智喜) D213
 Koyano Yuko(小谷野悠子) P312
 Kuba Naomi(久芳奈遠美) A156
 Kubo Hiroshi(久保博司) D157
 Kubota Hisayuki(久保田尚之)
 C353
 Kubota Takuji(久保田拓志) C305
 Kubota Tetsuya(久保田哲也)
 A206
 Kuji Makoto(久慈誠) D351
 Kunii Masaru(國井勝) D374
 Kurata Kohsuke(倉田耕輔) C366
 Kurihara Kazuo(栗原和夫) C201
 Kurita Naoyuki(栗田直幸) A308
 Kurita Susumu(栗田進) P171
 Kuroda Yuhji(黒田友二) B206
 Kurosaki Yasunori(黒崎泰典)
 B311
 Kusaka Hiroyuki(日下博幸) B155
 Kusaka Hiroyuki(日下博幸) P314
 Kusano Tetsuya(草野徹也) A210
 Kusunoki Kenichi(楠研一) A115
 Kusunoki Shoji(楠昌司) B167

<L>

Lestari Rosbintarti Kartika C301
 Liaqat Ali D367

<M>

Mabuchi Kazuo(馬淵和雄) B114
 Maejima Yasumitsu(前島康光)
 D109
 Maki Masayuki(真木雅之) A203
 Mano Yuzo(真野裕三) D201
 Maruyama Atsushi(丸山篤志)
 C170

Maruyama Ken-ichi(圓山憲一)
 D214
 Marzuki P321
 Masamura Shiro(正村史朗) B101
 Mase Hirofumi(間瀬博文) D119
 Masuda Kooiti(増田耕一) A359
 Masui Yukio(升井幸男) C214
 Matsuda Kazuhide(松田和秀)
 C153
 Matsuki Atsushi(松木篤) P140
 Matsumoto Jun(松本淳) A357
 Matsumoto Minobu(松元三展)
 P369
 Matsumoto Tsumoru(松本積)
 A204
 Matsushima Dai(松島大) C172
 Matsushita Hiroki(松下拓樹)P311
 Mikami Masao(三上正男) B304
 Mimura Kazuo(三村和男) D112
 Minami Yukiya(皆已幸也) C213
 Minamikawa Atsunori(南川敦宣)
 D360
 Misumi Ryohei(三隅良平) A202
 Mitoma Keita(三苫啓太) P301
 Miura Hiroaki(三浦裕亮) D364
 Miyakawa Takuma(宮川拓真)
 C111
 Miyamoto Kengo(宮本健吾) D166
 Miyasaka Takayuki(宮坂隆之)
 B104
 Miyata Hiroshi(宮田浩) P104
 Miyauchi Akiyuki(宮内章行)
 B354
 Miyazaki Kazuyuki(宮崎和幸)
 C166
 Miyazaki Shin(宮崎真) A304
 Miyazaki Yasuhiko(宮崎保彦)
 P303
 Miyazawa Takeshi(宮澤武志)
 C112
 Mizoue Yoshio(溝上良雄) P103
 Mizuta Ryo(水田亮) P346
 Mochizuki Takashi(望月崇) D301
 Monden Kazushi(門田和士) P121
 Mori Atsushi(森厚) D101
 Mori Kazumasa(森一正) P119
 Mori Shuichi(森修一) C308
 Morita Juntaro(森田純太郎) C356
 Moteki Nobuhiro(茂木信宏) C110
 Motoi Tatsuo(本井達夫) P358
 Mukougawa Hitoshi(向川均)D151
 Muraji Yoshitaka(村治能孝) B156
 Murakami Hiroyuki(村上裕之)
 D372
 Murakami Kazutaka(村上和隆)
 P362
 Murakami Masataka(村上正隆)
 A158

Murakami Shigenori(村上茂教) D104
 Murata Akihiko(村田昭彦) C368
 Murata Isao(村田功) C115
 Murayama Yasuhiro(村山泰啓) P133
 Muroi Chiashi(室井ちあし) B170
 Muroi Chiashi(室井ちあし) D363

<N>

Nagai Haruyasu(永井晴康) D315
 Nagai Shin(永井信) P356
 Nagamatsu Shingo(永松伸吾) A207
 Nagano Yoshinori(永野良紀) P154
 Nagasawa Chikao(長澤親生) D207
 Nagatani Tetsuji(長谷徹志) C101
 Naito Daisuke(内藤大輔) P306
 Nakaegawa Tosiya(仲江川敏之) B111
 Nakagawa Kiyotaka(中川清隆) P127
 Nakagawa Kiyotaka(中川清隆) P128
 Nakai Sento(中井専人) A168
 Nakajima Hideaki(中島英彰) C119
 Nakajima Takashi(中島孝) D352
 Nakamura Kenji(中村憲司) C151
 Nakamura Takuji(中村卓司) D161
 Nakamura Tetsu(中村哲) B208
 Nakazato Masahisa(中里真久) D208
 Nakazato Masahisa(中里真久) P105
 Nakazawa Tetsuo(中澤哲夫) D305
 Nakazawa Tetsuo(中澤哲夫) P117
 Naoe Hiroaki(直江寛明) C113
 Naoe Hiroaki(直江寛明) D169
 Narimatsu Akira(成松明) D308
 Nasuno Tomoe(那須野智江) A160
 Ninomiya Kozo(二宮洗三) B109
 Nishi Noriyuki(西憲敬) C310
 Nishimori Motoki(西森基貴) P163
 Nishizawa Keiichi(西澤慶一) P162
 Nishizawa Seiya(西澤誠也) B158
 Nishizawa Tomoaki(西沢智明) D205
 Niwano Masashi(庭野匡思) D170
 Noda Akira(野田暁) P316
 Noda Akira(野田彰) B166
 Noda Arisa(野田亜理沙) P146
 Nodzu Masato(野津雅人) B211
 Nogami Michimori(野上道守) P142
 Nohara Daisuke(野原大輔) B112
 Nozawa Toru(野沢徹) B161

<O>

Obata Atsushi(小畑淳) B115
 Ochiai Satoshi(落合啓) D358
 Oda Masahito(小田昌人) D115
 Oda Tomohiro(小田知宏) C161
 Ogi Masayo(小木雅世) P347
 Ogura Tomoo(小倉知夫) P156
 Ohata Tetsuo(大畑哲夫) A351
 Ohba Masamichi(大庭雅道) B215
 Ohdaira Mitsuru(大平満) P160
 Ohfuchi Wataru(大淵濟) D105
 Ohi Atsushi(大井淳) P111
 Oh'izumi Mitsuo(大泉三津夫) D306
 Oh'izumi Mitsuo(大泉三津夫) D307
 Ohno Yuichi(大野裕一) A163
 Okabe Masayo(岡部雅世) D310
 Okamoto Hajime(岡本創) B117
 Okamoto Ken(岡本健) P169
 Okumura Yuko(奥村夕子) C354
 Onishi Masanori(大西将徳) P330
 O'oishi Ryouta(大石龍太) P159
 Ookouchi Yasumasa(大河内康正) B154
 Orikasa Narihiro(折笠成宏) P122
 Oshima Kazuhiro(大島和裕) D165
 Ota Yoshifumi(太田芳文) D354
 Otobe Naohito(乙部直人) P345
 Otsuka Shigenori(大塚成徳) C304
 Otuka Akira(大塚彰) P137
 Ozuka Keiichi(尾塚馨一) P323

<P>

Peng Xin dong(彭新東) A152
 Prasad V.S. B213

<R>

Reddy K. Krishna A119
 Rikiishi Kunio(力石國男) B203

<S>

Saga Katsumi(佐賀勝己) P143
 Saito Atsushi(齋藤篤思) A175
 Saitoh Naoko(齋藤尚子) P333
 Saitoh Taku(齋藤琢) P165
 Sakai Akiko(坂井亜紀子) D158
 Sakai Daisaku(坂井大作) P364
 Sakai Kotaro(酒井孝太郎) B121
 Sakai Tetsu(酒井哲) A166
 Sakamoto Kei(坂本圭) D102
 Sakano Kazuyo(坂野井和代) P144
 Sakurai Toshiyuki(桜井敏之) D314
 Sasai Takahiro(佐々井崇博) P338

Sasaki Hidetaka(佐々木秀孝)

P158
 Sasaoka Masahiro(笹岡雅宏) P370
 Satake Shinsuke(佐竹晋輔) B368
 Sato Hiroki(佐藤弘樹) P141
 Sato Kaori(佐藤可織) P318
 Sato Kaoru(佐藤薫) D159
 Sato Kaoru(佐藤薫) D160
 Sato Naoki(佐藤尚毅) A169
 Sato Naoki(佐藤尚毅) B106
 Sato Noboru(佐藤昇) P313
 Sato Shinsuke(佐藤晋介) D215
 Sawada Masahiro(沢田雅洋) P302
 Sawai Tetsuji(澤井哲滋) D162
 Seiki Ayako(清水亜矢子) P349
 Seino Naoko(清野直子) B359
 Seki Takanori(関隆則) B157
 Seki Takanori(関隆則) P155
 Sekiya Naotaka(関谷直高) P304
 Sekiyama Tsuyoshi(関山剛) C120
 Sekizawa Shinya(関澤信也) P324
 Seko Hiromu(瀬古弘) D375
 Seko Hiromu(瀬古弘) P113
 Sha Weiming(余偉明) C202
 Shiba Sadataka(芝定孝) A157
 Shibagaki Yoshiaki(柴垣佳明) P352
 Shibasaki Kazuo(柴崎和夫) C155
 Shibata Kiyotaka(柴田清孝) D156
 Shibata Kiyotaka(柴田清孝) P342
 Shige Shoichi(重尚一) A171
 Shimizu Atsushi(清水厚) B353
 Shimizu Takahiro(清水崇博) A121
 Shimose Ken-ichi(下瀬健一) A111
 Shimura Takatsugu(紫村孝嗣) A116
 Shinoda Taro(篠田太郎) P327
 Shiobara Masataka(塩原匡貴) D206
 Shirooka Ryuichi(城岡竜一) C313
 Shoji Yoshinori(小司禎教) D359
 SIGMET JAPAN(シグメット・ジャパン) A170
 SIGMET JAPAN(シグメット・ジャパン) D209
 Sono Yasuo(園井康夫) A118
 Sonomura Shin(園村伸) A205
 Sudo Kengo(須藤健悟) C154
 Sugimoto Shiori(杉本志織) A356
 Sugita Michiaki(杉田倫明) A301
 Sugita Michiaki(杉田倫明) A303
 Sugita Takafumi(杉田孝史) P332
 Suzuki Hiroto(鈴木博人) P308
 Suzuki Kentaroh(鈴木健太郎) A155
 Suzuki Osamu(鈴木修) A112
 Suzuki Shin(鈴木臣) P145

Suzuki Tomoyuki(鈴木智幸) P319
Suzuki Tsuneaki(鈴木恒明) C303

<T>

Tachibana Yoshihiro(立花義裕)
A362
Tagami Hiroataka(田上浩孝) B107
Taguchi Shoichi(田口彰一) C162
Takagi Masahiro(高木征弘) D118
Takahashi Hiroshi(高橋宙) B369
Takahashi Hitoshi(高橋仁) C205
Takahashi Kiyotoshi(高橋清利)
D302
Takahashi Nobuhiro(高橋暢宏)
A172
Takahashi Tsuneya(高橋庸哉)
A176
Takahashi Tsuneya(高橋庸哉)
C351
Takahashi Tsutomu(高橋勲) A153
Takahashi Tsutomu(高橋勲) A154
Takahashi Yukihiko(高橋幸弘)
A117
Takamura Yoko(高村陽子) B119
Takeda Shigeo(武田重夫) P106
Takemi Tetsuya(竹見哲也) B358
Takemi Tetsuya(竹見哲也) C106
Takemura Toshihiko(竹村俊彦)
C114
Tamagawa Ichiro(玉川一郎) C169
Tanaka Hiroshi(田中博) D107
Tanaka Kenji(田中健路) A307
Tanaka Taichu(田中泰宙) B362
Tanaka Tomoaki(田中智章) P329
Taniguchi Hiroshi(谷口博) D111
Terada Hiroaki(寺田宏明) C163
Terao Toru(寺尾徹) C307
Teshiba Michihiro(手柴充博)
C362
Teshima Akari(手島あかり) C216
Tian Shao-Fen(田少奮) B310
Tobo Yutaka(當房豊) C103
Tokinaga Hiroki(時長宏樹) D311
Tomita Hirofumi(富田浩文) B116
Tomita Tomohiko(富田智彦) D312
Tonouchi Michihiko(登内道彦)
C215
Tsuboki Kazuhisa(坪木和久) A103
Tsubota Yukimasa(坪田幸政)
P114
Tsujimaru Sho(辻丸詔) D357
Tsujino Fumitaka(辻野文剛) P353
Tsuruta Haruo(鶴田治雄) B308
Tsutsui Junichi(筒井純一) B165

<U>

Uchida Satoshi(内田敬) C212

Uchiyama Akihiro(内山明博)
B365
Ueda Hiroaki(植田宏昭) B214
Ueda Hiroaki(植田宏昭) A358
Ueno Mitsuru(上野充) C371
Ujii Masashi(氏家将志) P317
Umemoto Yasuko(梅本泰子) P108
Uno Itsushi(鶴野伊津志) B361
Ushio Tomoo(牛尾知雄) P325
Ushiyama Motoyuki(牛山泰行)
A208
Uyeda Hiroshi(上田博) A107
Uyeda Hiroshi(上田博) A305

<W>

Wada Eiko(和田英子) A164
Wada Kazunori(和田一範) B169
Wakatsuki Yasutaka(若月泰孝)
B171
Watai Tomonori(渡井智則) P335
Watanabe Akira(渡辺明) A114
Watanabe Masaharu(渡辺迎春)
P328
Watanabe Tsutomu(渡辺力) P359
Watarai Yasushi(渡来靖) D106
Wu Peiming(伍培明) C171

<Y>

Yabuki Sadayo(矢吹貞代) B305
Yamada Hiroyuki(山田広幸) A102
Yamada Hiroyuki(山田広幸) A306
Yamada Tetsuji(山田哲二) C204
Yamada Yoshinori(山田嘉典)
P343
Yamada Yukiko(山田由貴子)
C302
Yamaguchi Satoru(山口悟) P367
Yamaki Yoshihiro(山木美弘)
D152
Yamamoto Akira(山本哲) B360
Yamamoto Haruhiko(山本晴彦)
C210
Yamamoto Haruhiko(山本晴彦)
P164
Yamamoto Koh(山本紘) P365
Yamamoto Masayuki(山本真之)
P354
Yamamoto Takashi(山本享) B309
Yamanaka Noriko(山中的り子)
B355
Yamane Yusuke(山根悠介) P307
Yamanouchi Akiko(山内明子)
D309
Yamasaki Masanori(山岬正紀)
A161
Yamasaki Masanori(山岬正紀)
C369
Yamashita Katsuya(山下克也)
B307

Yamashita Kazuya(山下和也)
C370
Yamashita Yousuke(山下陽介)
P148
Yamazaki Nobuo(山崎信雄) B151
Yamazaki Nobuo(山崎信雄) B209
Yamazaki Rintaro(山崎仁太郎)
P168
Yanagino Takeshi(柳野健) D217
Yasui Motoaki(安井元昭)
B352
Yasunaga Kazuaki(安永数明)
B172
Yasunaga Kazuaki(安永数明)
C311
Yasunari Teppei(安成哲平) P134
Yasunari Tetsuzo(安成哲三) A364
Yasutomi Natsuko(安富奈津子)
B110
Yatagai Akiyo(谷田貝亜紀代)
A363
Yi Sanghun(李相勲) P167
Yokohata Tokuta(横島徳太) B162
Yoko Satoru(横井覚) P151
Yomogita Yasuhiro(蓬田安弘)
C208
Yoneyama Kunio(米山邦夫) C357
Yoshida Akira(吉田聡) P315
Yoshida Yasuhiro(吉田保衡) P368
Yoshida Yoshikatsu(吉田義勝)
P363
Yoshida Yukio(吉田幸生) P320
Yoshiki Motoyoshi(吉識宗佳)
C116
Yoshimura Hiromasa(吉村裕正)
D362
Yoshimura Jun(吉村純) C367
Yoshioka Mayumi(吉岡真由美)
C364
Yougai Toshiro(用具敏郎)
A110
Yukimoto Seiji(行本誠史) B164
Yukimoto Shinji(雪本真治) D113

<Z>

Zainul Akramin P152
Zaizen Yuji(財前祐二) P337
Zama Kimio(座間公夫) P341
Zhang Cheng-Zhong A106
Zhang Daizhou(張代洲) B306
Zhao Nan(趙南) D103
Zhu Bin(朱彬) P139